

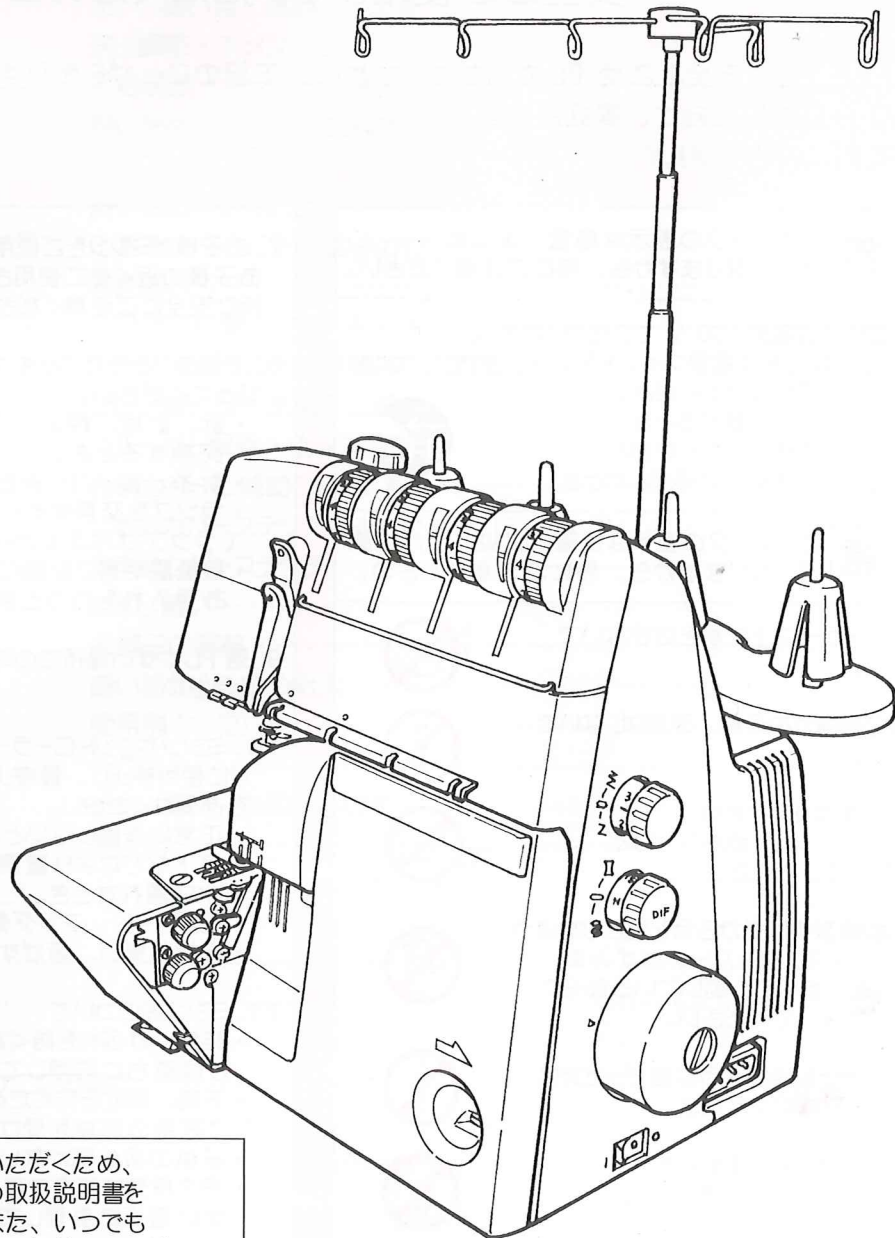
JUKI

2・3・4・5本糸+カバーステッチ付き (差動調節付き)
ロックミシン

MO-345DC

コレクション
MO-345DC

取扱説明書



! 注意

安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げまことにありがとうございます。


このロックミシンの特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくために
どうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。


安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことごらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。


FOR USE IN JAPAN ONLY







 この表示は
禁止マークです。

 **警告** このマークの表示は感電、火災の
原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源 100 V でご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ ミシンをご使用になったあと。
 - ・ ミシンのご使用中に停電したとき。



 **注意** このマークの表示は感電、火災、けがの原因
となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないで
ください。
2. お客様ご自身での分解、改造はしないで
ください。
3. ミシンを操作するときは
ルーパーカバー、布台カバーなど
カバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は針から目を離さないよう
にし、針、メス、ルーパー、はずみ車、
天びんなど、すべての動いている部分に
手を近づけないでください。
5. 針折れの原因となるような曲がった針は
ご使用にならないでください。
6. 針折れの原因になりますので、
縫製中に布を無理に引張ったり、
押したりしないでください。

7. お子様がミシンをご使用になるときや、
お子様の近くでご使用されるときは、
特に安全にご注意ください。



8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを
切ってください。

- ・ 針、針板、押え、アタッチメントなどを
交換するとき。
- ・ 針糸、ルーパー糸をセットするとき。
- ・ ランプを交換するとき。
(ランプが冷えてから行ってください)
- ・ 取扱説明書に記載のあるミシンの
お手入れを行うとき。



9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないで
ください。

10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やか
に使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整
をお受けください。

- ・ 正常に作動しないとき。
- ・ 落下などにより破損したとき。
- ・ 水に濡れたとき。
- ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・ 異常な臭い、音がするとき。

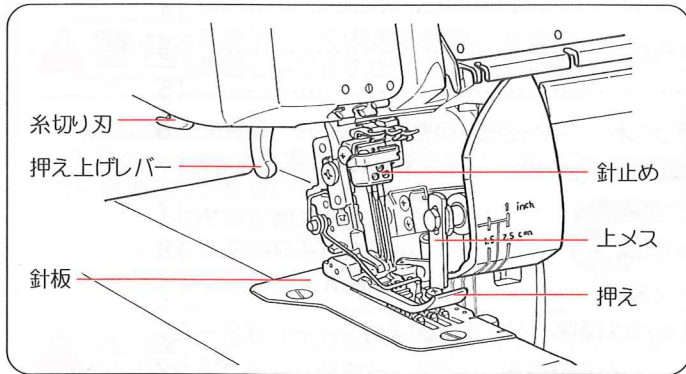
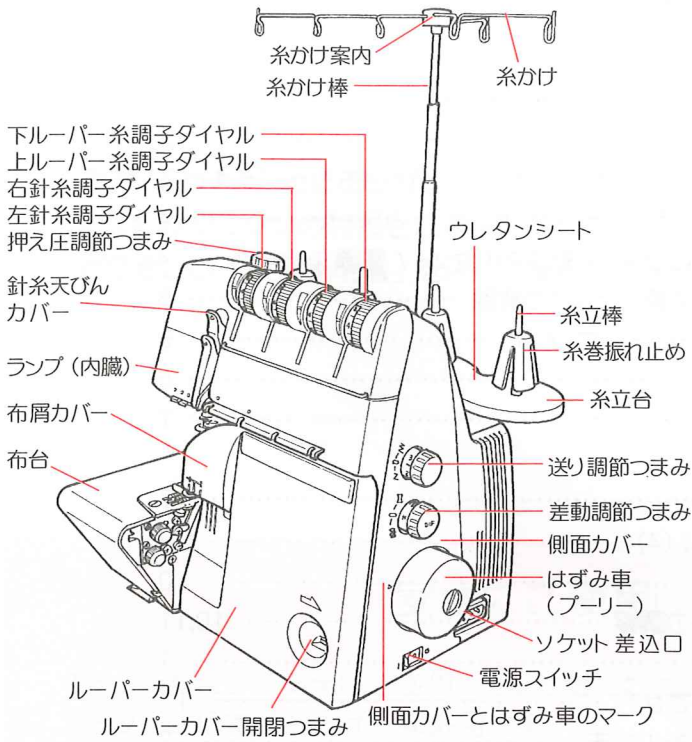
11. ミシン油について

- ・ 炎症、かぶれを防ぐため、目や身体に油が付着したと
きは直ちに洗浄してください。
- ・ 下痢、嘔吐を防ぐため、誤って飲み込んだ場合、直ち
に医師の診断を受けてください。
- ・ 子供の手の届かないところに置いてください。
- ・ 油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに
従い適正に廃棄してください。

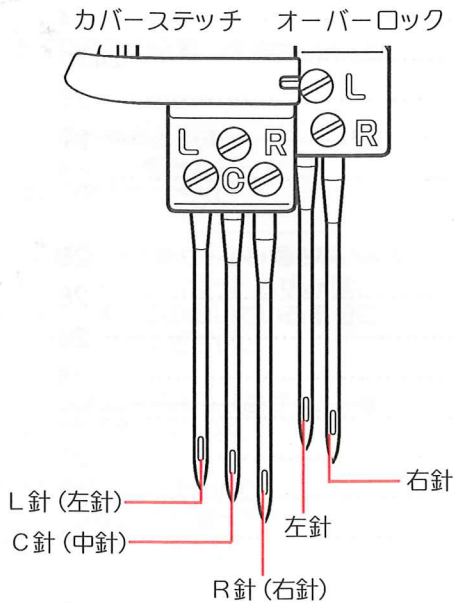
もくじ

安全にご使用していただくために	1
各部の名称・付属品	3
動かす前の準備・各部の操作とはたらき	4～7
コントローラーの取り付け方/ 布屑受け箱の取り付け方	4
糸かけ棒と糸かけ糸案内のセット / 補助糸立て皿のセット / 糸ゴマのセット / 電源スイッチ	4
押え上げレバー/ 押えについて / 押えの印 / 押えの交換 / 上メスの解除	5
ルーパークバーの開閉/ 布台の開閉 / はずみ車（プーリー）について	6
縫い代のガイド線について / 押え圧調節つまみ	6
針の交換 / 針の確認 / 布地・糸・針の関係	7
オーバーロックの糸のかけ方	7
4 本糸オーバーロック	糸かけ順序 (1) (2) (3) (4) 8,9
ためし縫い	10
正しい縫い目・糸調子の調整	10,11
送り調節・下メス調節	11
差動調節・ギャザーの寄せ方	12
縫い始め・縫い終りの糸の始末	13
テープ付け	14
縫い目の糸のほどき方	14
3 本糸オーバーロック	3 本糸オーバーロックの糸かけ 15
巻き縫い	15
2 本糸オーバーロック	2/3 本切り替えアタッチメント 16
インターロック	インターロックの糸掛け順序(1) (2) (3) 16,17
正しい縫い目・糸調子の調整	17
カバーステッチ	上ルーパー解除・上メス解除 18
布屑カバーと補助ベット 交換	19
3 本針カバーステッチの糸かけ順序 (1) (2) (3) (4)	19～21
2 本針カバーステッチ	21,22
ためし縫い	23
糸調子の調整	23
縫い終わりの糸の始末	24
使用例 (1) (2)	24,25
チェーンステッチ	糸かけ 26
ためし縫い・糸調子の調整	27
使用例	27
上メスの交換	28
下メスの交換	28
ランプの交換	28
掃除と注油	28
サービスをお申し付けになる前に	29,30
別売品	31
仕様表	32
ステッチ一覧表	33,34

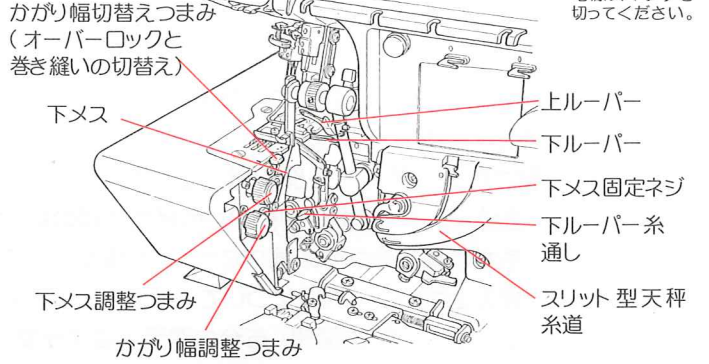
各部の名称／付属品



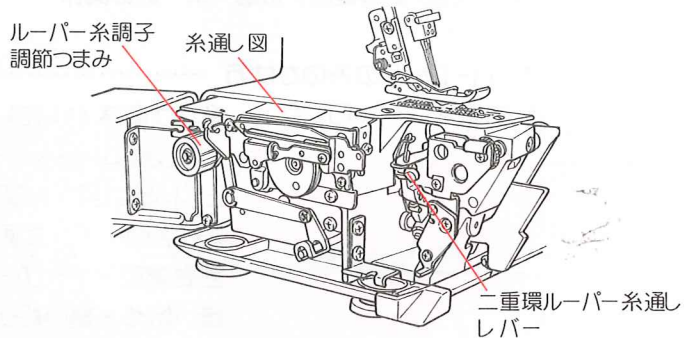
■各針位置と名称



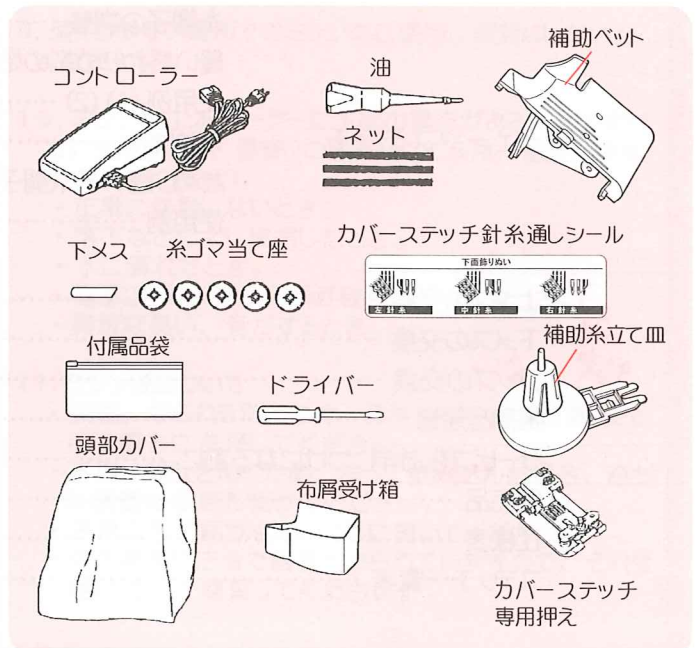
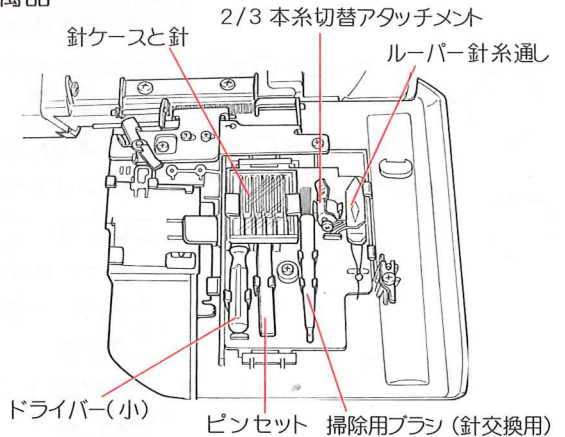
■ルーパーカバーを開けたところ **注意**



■布台を開けたところ **注意**



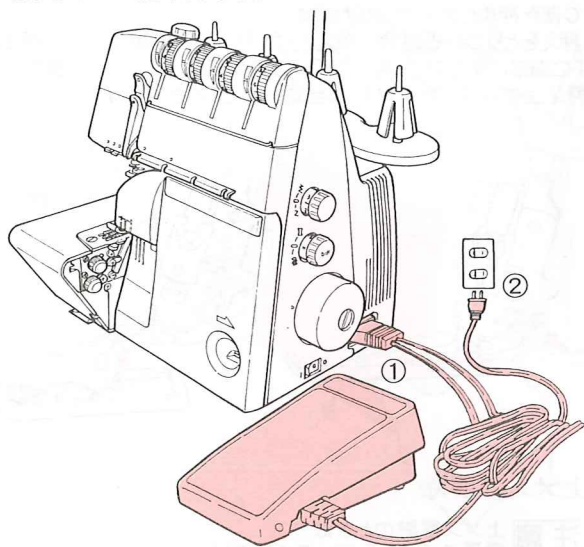
■付属品



動かす前の準備・各部の操作とはたらき

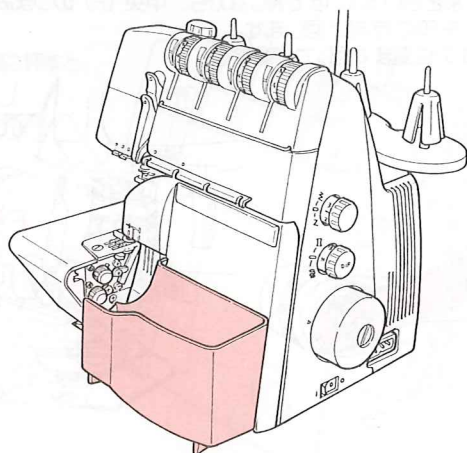
■コントローラーを取り付けます

- ① コントローラーをソケット差し込み口に差し込みます。
- ② プラグを室内コンセントに差し込みます。
- ③ コントローラーの上に足をのせます。
コントローラーを強く（深く）踏むと速くなり、
弱く（浅く）踏むと遅くなります。



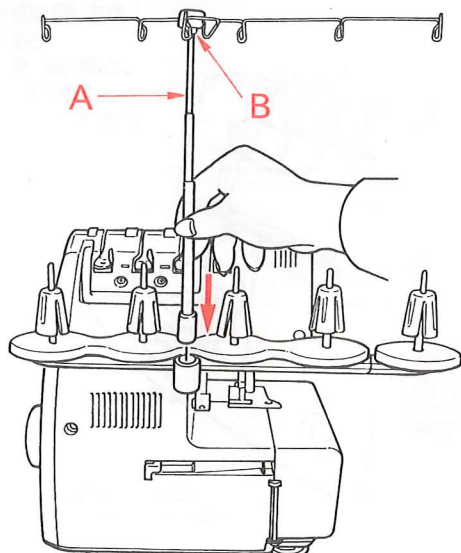
■布屑受け箱の取り付け

布屑受け箱をルーバーカバーの穴に差し込んでください。
布を切断した後の布がそこに入ります。



■糸かけ棒と糸かけ案内のセット

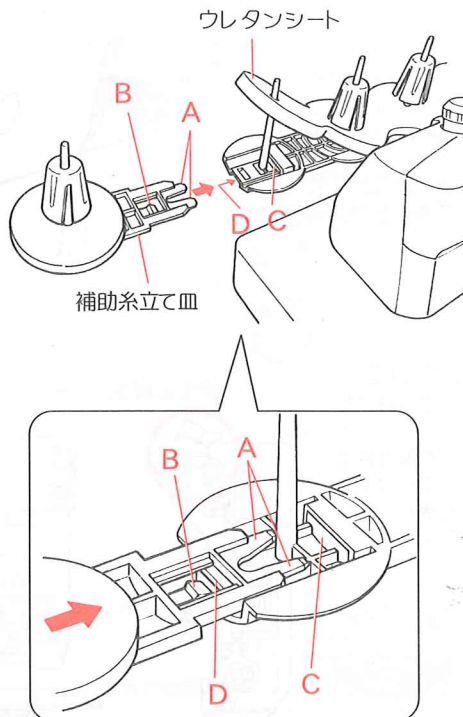
糸かけ棒 (A) を引き出し、位置決めスッパーに「カチッ」と入れて、糸かけ (B) が糸立棒の真上になるようにセットします。



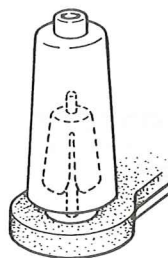
■補助糸立て皿のセット

ウレタンシートを持ち上げて、補助糸立て皿の先端 (A) を (C) まで差し込みます。

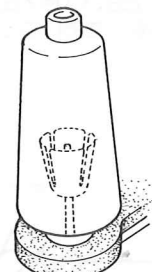
補助糸立て皿のひっかけ部 (B) を (D) の下側を通して差し込みます。



■ロック用糸の場合



■大型糸巻き糸の場合



内径の大きい糸巻き糸は糸巻振れ止めを逆さにします。

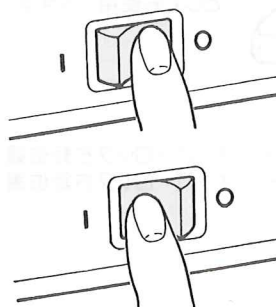
■家庭用糸ゴマの場合



切り込み部

糸巻振れ止めを抜きとり、糸ゴマの切り込み部を下に差し込み、糸ゴマ当て座の凸部を上差し込みます。

■電源スイッチについて



0 側を押すと電源が切れます。

I 側を押すと電源が入ります。

注意 ミシンをお使いにならないときは下記のことを行ってください。

1. 電源スイッチを0 (切る) にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

動かす前の準備・各部の操作とはたらき

■ 押え上げレバーについて

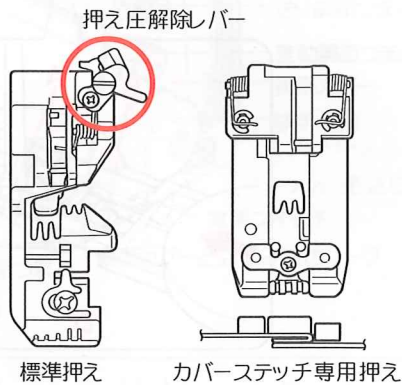
- A. 通常の場合、A 位置まで上がります。
- B. 押えの交換や厚布など押えと針板とのすき間を必要とするとき、B 位置まで上げます。

- ※ A 位置にレバーを上げると糸調子皿が開きますので糸通しのときは、必ず押えを上げてください。
- ※ B 位置まで上げると押え先端が高く上がり、便利です。



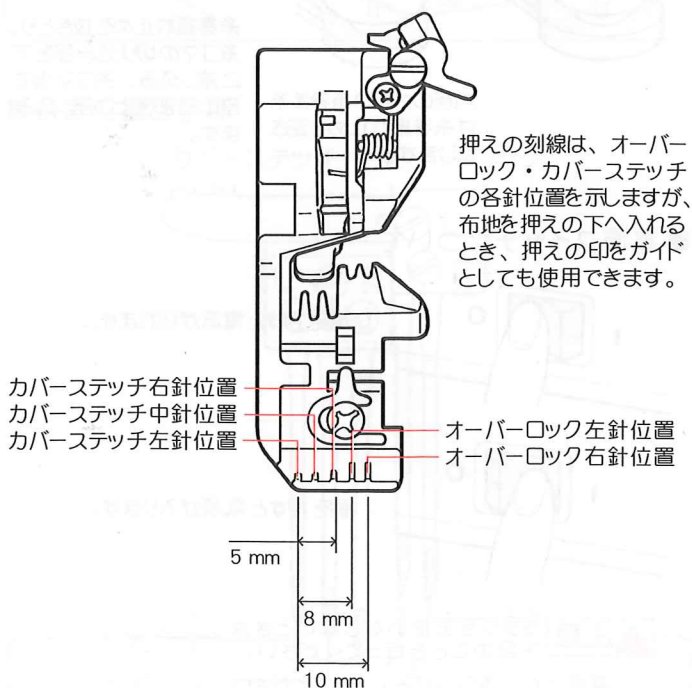
■ 押えについて

標準押えで全ての縫いができますが、カバーステッチ専用押えを使うと、リブ付けや伏せ縫いなどきれいに縫うことができます。



* 押え圧を調整したい時
カバーステッチをジャージーや水着のような生地に縫いたいときには、押え圧解除レバーは後ろ側に押ししてください（押え圧は弱くなります）。通常の場合には、押えのレバーは手前側にしておいてください。

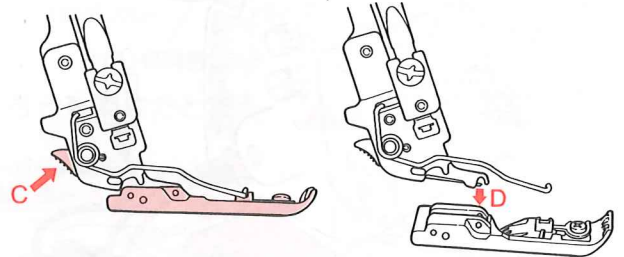
■ 押えの印について



■ 押えの交換

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

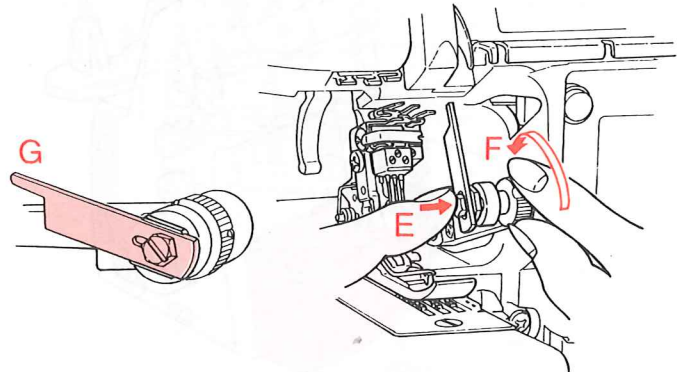
1. 押えを上げます。
2. はずみ車を回し、針を一番上まで上げます。
3. C部を押すと押えがはずれます。
4. 押えをとりつける場合は押え上げレバーをB位置に上げ、押えを下に置き、押えのピンをホルダーの溝の下に(D)正しく置き、押え上げレバーを下げれば自動的にセットされます。



■ 上メスの解除

注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を回し、メスが一番上になる位置で止めて、ルーパークバーを開けます。
2. E部を右いっぱいまで押しながら、中央(F)のつまみを矢印の方向に回します。
3. Gの位置まで回して止めます。

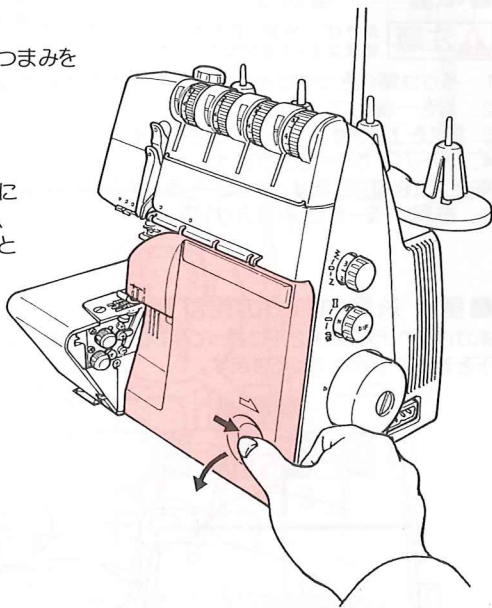


■ルーパークバーの開閉について

注意 ルーパークバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

・開け方
ルーパークバー開閉つまみを右側に引いてから手前に倒します。

・閉じ方
ルーパークバーを右に引きながら上にあげ、軽く向こう側に押すと自動的に閉じます。

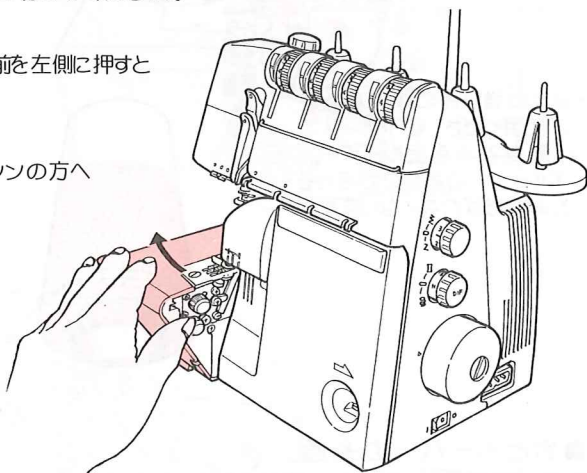


■布台の開閉について

注意 布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。

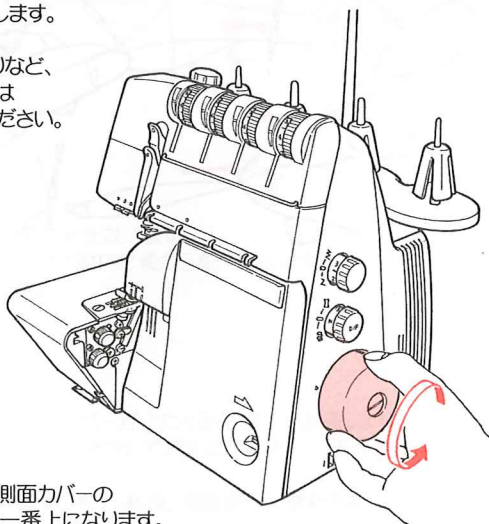
・開け方
布台の手前を左側に押すと開きます。

・閉じ方
布台をミシンの方へ押します。



■はずみ車（プーリー）について

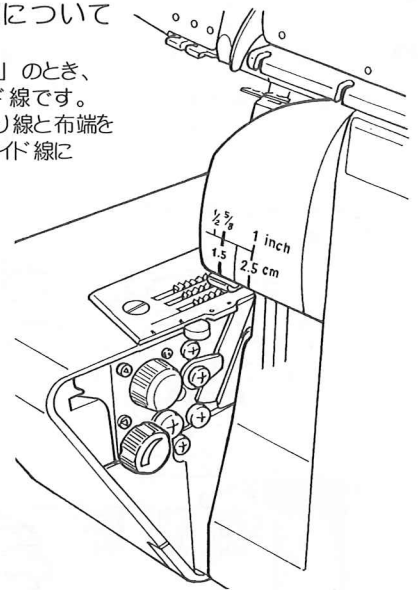
はずみ車は手前に回します。
※糸を通したあと、縫い始め、縫い終りなど、はずみ車を回すときは必ず手前に回してください。



※はずみ車の口印と側面カバーの▼印を合せると針が一番上になります。

■縫い代のガイド線について

下メス調節つまみ目盛「1」のとき、右針からの縫い代のガイド線です。布地を裁断するとき、仕上り線と布端を一定の幅に決め、布端をガイド線に合わせてお使いください。

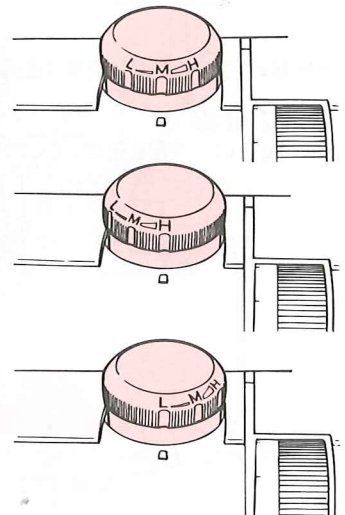


■押え圧調節つまみ

M：普通地、通常のととき合わせます。

H：押え圧力が強くなる。
デニム、ツイードなど厚手の布地。

L：押え圧力が弱くなる。
ジョーゼット、ローン、トリコットなど薄手の布地。



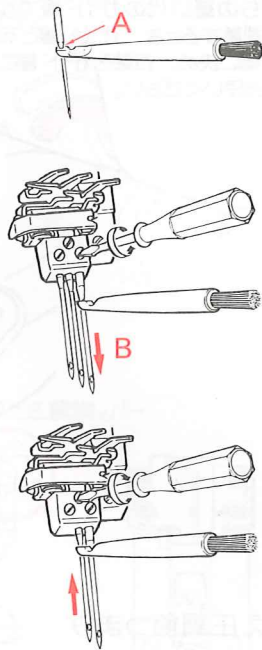
オーバーロックの糸のかけ方

■ 針の交換のときは

▲注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

1. 針を一番上まであげます。
2. 掃除用ブラシの反対側の針穴に針をさし込みます。(A)
3. ドライバー(小)を使い針止めネジをゆるめて針をはずします。(B)
4. 掃除用ブラシの針穴に新しい針の平らな面を向こう側にして針を入れ、針とりつけ溝穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。(C)

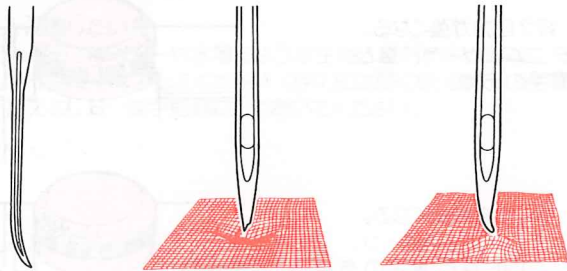
針の平らな面



※掃除ブラシの後側が針交換の道具として使えます。

■ 針の確認

針については、下記を確認してください。



- ・ 曲がりがないか
- ・ 先端にダメージを受けていないか
- ・ 先端がまがっていないか

■ 針の種類

この小型ロックミシンの針は家庭用ミシン針を使います。
シユメツ 130/705H

針の種類	針の太さ	用途
130/705H	12 番	標準(薄物・普通物)用
	14 番	厚物用(段部で目飛びが発生する ときにもお使いください。)

※お買い求めの際は、このタイプの針をご指定ください。
※ご購入時のミシンには、12 番の針が取付けてあります。

■ 布地・糸・針の関係

・かがり縫い、合わせかがり縫いの目安です。

布地の種類	糸の種類	ミシン針
薄地 ショーゼット、 ローン、トリコット	スパン糸 80番~90番	12 番
普通地 ポプリン、ギンガム ブロード、ギャバジン メリヤス	スパン糸 60番~90番	12 番~14 番
	フィラメント糸 50番~80番 (トロン)	
厚地 デニム、ツイード ジャージー	スパン糸 60 番	14 番
	フィラメント糸 60 番 (トロン)	

美しい縫い目をつくるには…
正しい糸かけ順序で糸を通してください。

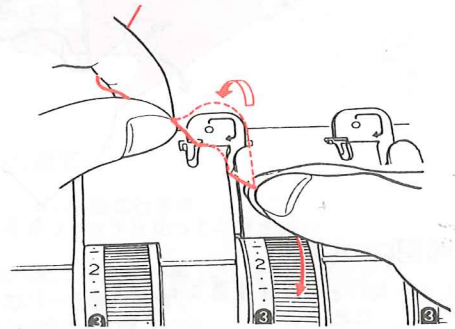
■ 準備

▲注意 糸かけ、糸通しの際は電源スイッチを切ってください。

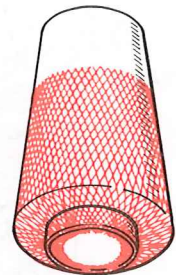
1. 糸かけ案内をつけた糸かけ棒を一番上までのばします。
 2. 針を一番上にします。
 3. 押えを上げます。(糸調子皿が開きます)
 4. ルーバーカバーをあげます。
- ※上メスを解除しますとさらに糸通しが容易になります。
5. 布屑カバーをセットします。

■ 第1 糸案内の糸の掛け方

糸かけ棒へ掛けた糸を下に持ってきて、第1 糸案内の左側からかけて、下を通して手前に持ってきます。

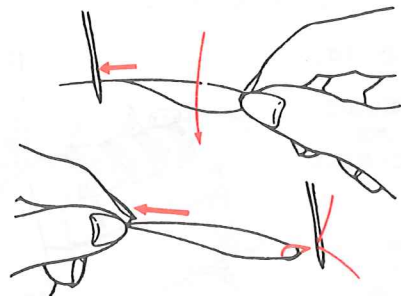


・よりの強い糸にはネットを
ご使用ください。
付属のネットを上ルーバー、
下ルーバーの糸駒にかぶせると
糸があばれなくなります。



■ 針とルーバーの糸通し

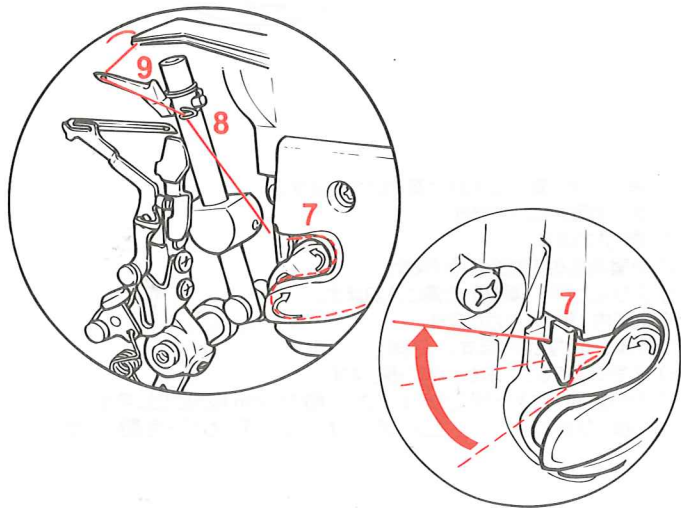
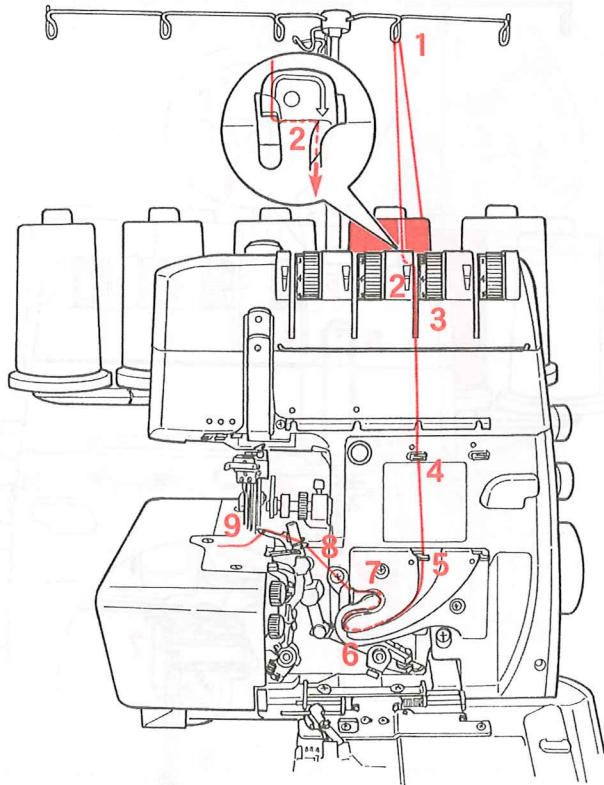
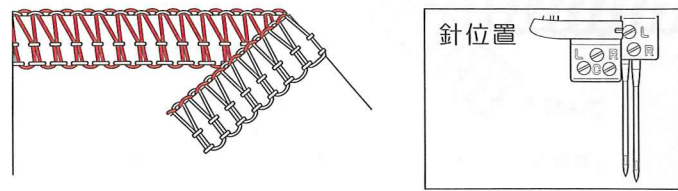
糸通し器を使うと、ルーバーと針に糸を通しやすくなります。



4 本系オーバーロック 糸かけ順序 (1)

1 番目の糸かけ 上ルーパー糸 (青印)

※布屑カバーを取り付けます (19 ページ参照)

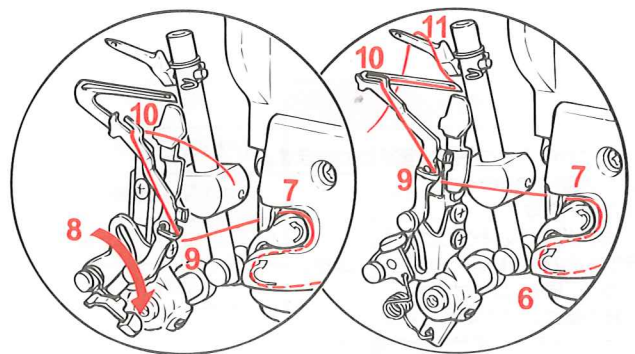
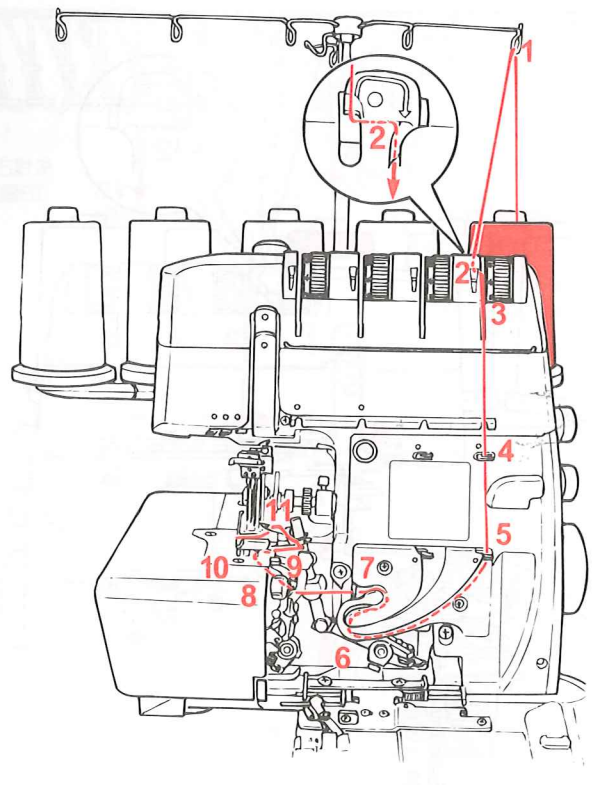
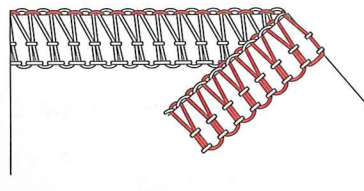


- 押えが上がっている状態で糸をかけます。
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
 - (2) 第1糸案内にかけます。
 - (3) 溝に入れます。
 - (4,5) 糸案内にかけます。
 - (6) 溝にそって入れます。
 - (7,8) 糸案内にかけます。
 - (9) はずみ車を回し、上ルーパーが上にくる位置で糸を通します。
 - (10) 糸の先端を約 10 cm 引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

※ルーパーの穴へ糸を通すとき、糸通し器を使うと便利です。

糸かけ順序 (2)

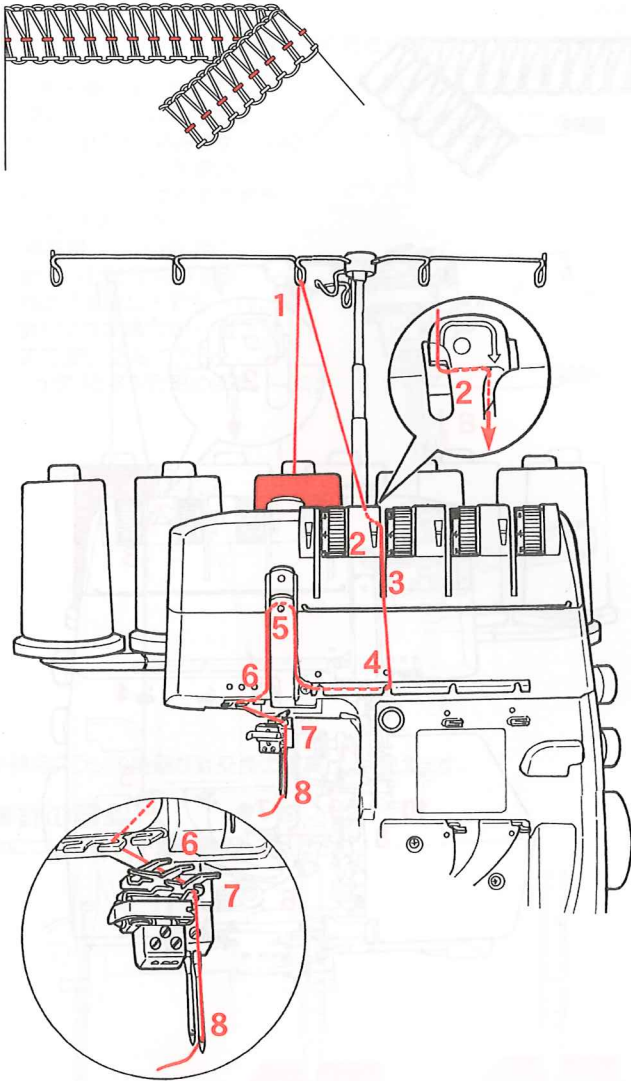
2 番目の糸かけ 下ルーパー糸 (赤印)



- (1) 糸ゴマから糸を真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4,5) 糸案内にかけます。
- (6) 溝にそって入れます。
- (7) 糸案内にかけます。
- (8) 糸通しレバーをさげます。
- (9,10) 糸案内にかけます。
- (11) 下ルーパー穴に糸を通し、後ろへ 10 cm ぐらい出します。
- (12) はずみ車を手前に回しますと糸通しレバーは元に戻ります。
- (13) 引き出した糸を上ルーパーの上方から下へもって行き、押えの下に入れ、後ろに出します。

糸かけ順序 (3)

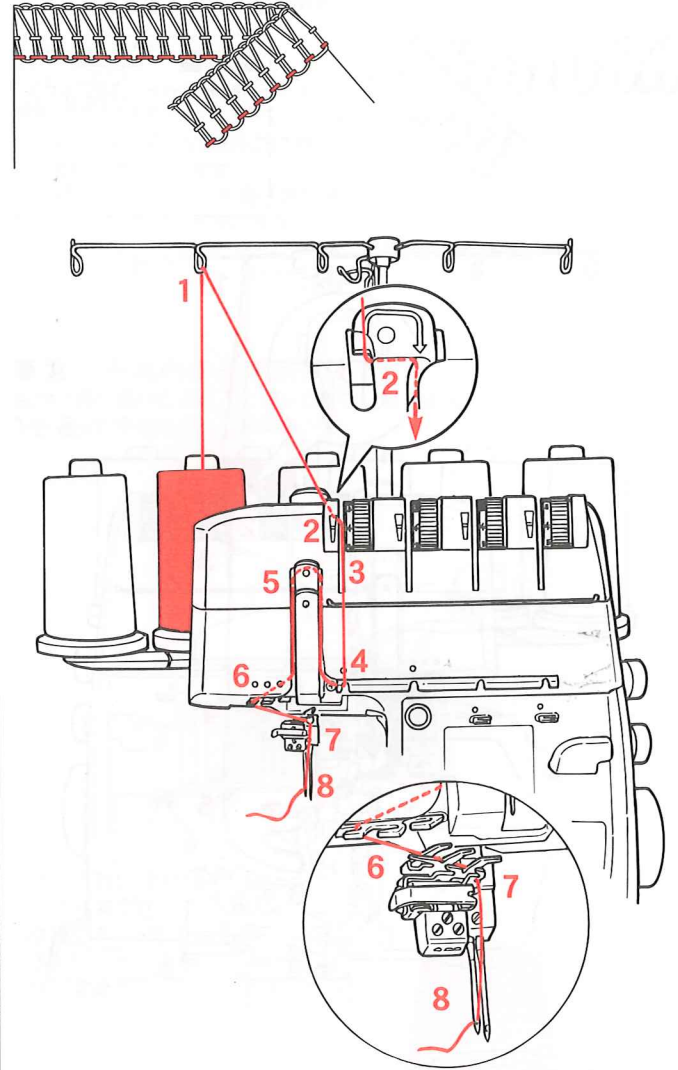
3 番目の糸かけ 右針系 (緑印)



- (1) 糸コマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー (緑印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (緑印) にかけます。
- (7) 針棒糸案内にかけます。(右側)
- (8) 右針の針穴に、前から後に通します。
- (9) 針穴を通した糸を押えの下に入れ、約 10 cm 後ろに出します。

糸かけ順序 (4)

4 番目の糸かけ 左針系 (黄印)



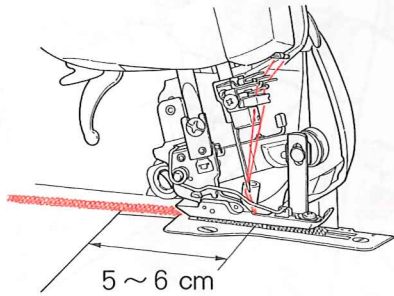
- (1) 糸コマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー (黄印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (黄印) にかけます。
- (7) 針棒糸案内にかけます。(右側)
- (8) 左針の針穴に、前から後に通します。
- (9) 針穴を通した糸を押えの下に入れ、約 10 cm 後ろに出します。
糸通しが終わったら、上メスを下げ、ルーバーカバーを閉じます。

ためし縫い

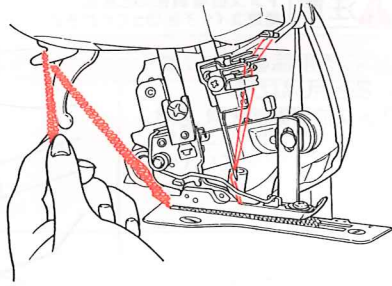
■糸かけが終わったら、ためし縫いをしてみましょう
二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか、調べます。

1. 上メスが下がっているかを確認めます。
2. 押えを下げます。
3. 糸かけした糸を押えの後ろ側で持ち、コントローラーを踏んで空環を6~7 cm 出します。
4. 押えの手前を指先で上げ布地を上メスのところまで入れます。
5. スタートさせます。

6. 縫い終わったら
5~6 cm 空環を出します。



7. 糸切り刃に
空環をかけて切ります。

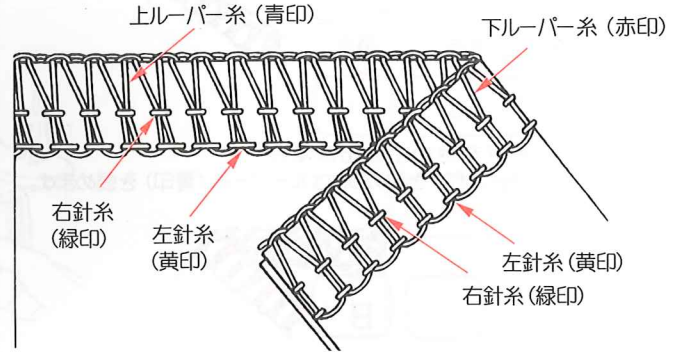


からかん
※空環とは：布地がなくて、糸の縫い目形状ができたものです。

正しい縫い目・糸調子の調整

■正しい縫い目
きれいな縫い目のときは、上下ルーバーの結節が布の端に揃っています。針糸の縫い目もまっすぐに見えます。

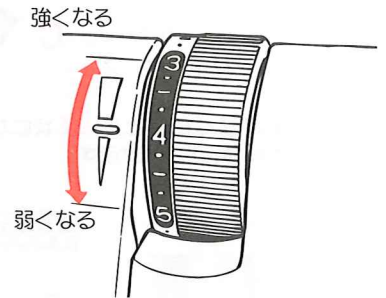
2本針4本糸の例



■糸調子ダイヤルの合わせ方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛 (1~9) を調節するだけで修正できます。

上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。



	ダイヤル目盛の目安
上ルーバー糸調子ダイヤル	3~5
下ルーバー糸調子ダイヤル	3~5
右針糸調子ダイヤル	3~5
左針糸調子ダイヤル	3~5

※フィラメント糸やウーリーナイロン糸などは変化します。

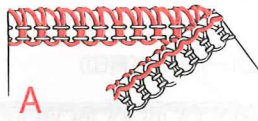
送り調節・下メス調節

■糸調子の調整の仕方

糸調子ダイヤルは1目盛か半目盛ずつ回し、
ためし縫いをしながら調節します。

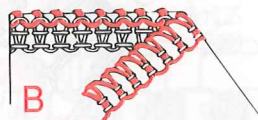
上ルーバー糸が布地の下に出る場合

→上ルーバー糸(青印)を強めるか下ルーバー糸(赤印)を弱めます。



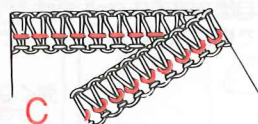
下ルーバー糸が布地の上に出る場合

→下ルーバー糸(赤印)を強めるか上ルーバー糸(青印)を弱めます。



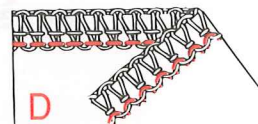
右針糸が弱く布裏でループ状になる場合

→右針糸(緑印)を強めます。



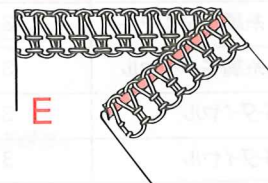
左針糸が弱く布裏でループ状になる場合

→左針糸(黄印)を強めます。



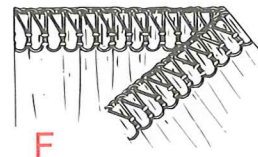
縫い目の中で布地がカールしている場合

→上ルーバー糸(青印)と下ルーバー糸(赤印)を弱めます。
(かがり幅調節つまみで調節できる場合があります) 右記参照



布地にシワが出る場合

→右、左針糸(緑、黄印)を弱くします。



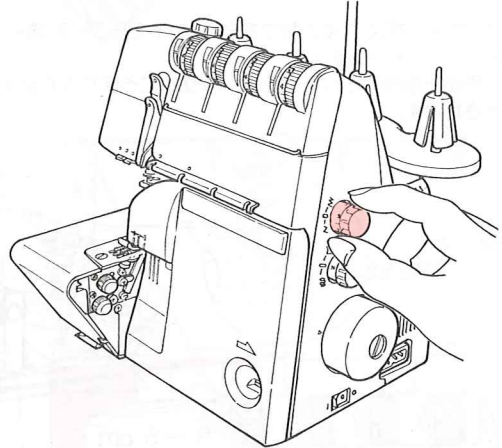
■送り調節つまみ (縫い目の長さ調節)

縫い中でも「1~4」の範囲で調節できます。

普通の縁かがりは「2.5」が標準です。

全巻き縫い、細ロック縫いは「1~1.5」が最適です。

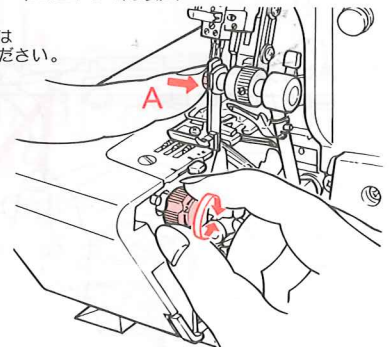
ブライドステッチ(まつり縫い)は「4」にします。



■下メス位置調節つまみとかがり幅調節つまみ (かがり幅と布端カット位置の調節)

注意 下メス位置調節のときは電源スイッチを切ってください。

上メスを解除するか、
A部を押しながら
下メス位置調節を回します。

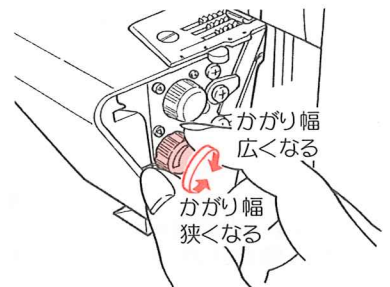


布端カット位置の調節

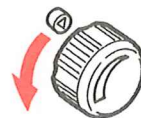
下メス位置調節 つまみ目盛	1	2	3
右針からのかがり幅	5 mm	6 mm	7 mm
左針からのかがり幅	7 mm	8 mm	9 mm

かがり幅の調節

かがり幅は、下メス位置の
調節と連動し設定されますが、
かがり幅のみを調節する
ことができます。

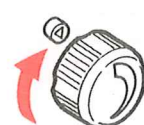


●縫い目に布端がとどかない。
(縫い目に対し糸余りがある)
かがり幅調節つまみを小さく
なる方向に回します。



※「下メス位置」「かがり幅調節」で糸
余りや布地のカールが改善されな
い場合は、上・下糸調子ダイヤル
調整してください。

●縫い目に布端が飛び出してい
るが、縫い目の中で布地がカール
している。
かがり幅調節つまみを大きく
なる方向に回します。



※かがり幅調節つまみの位置は
最大が標準位置です。

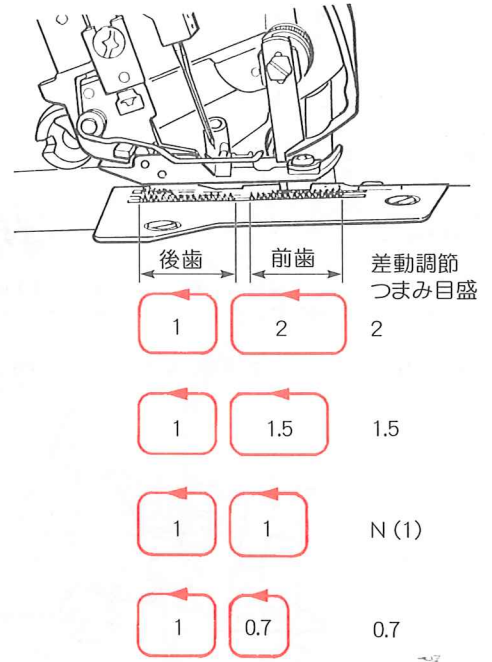
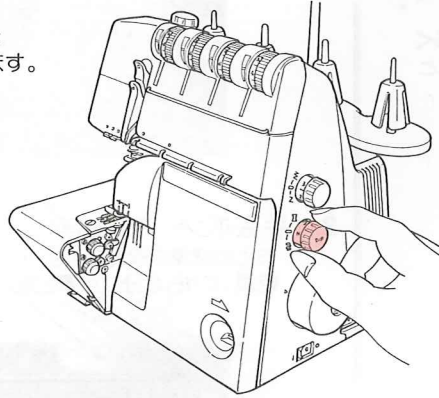
差動調節・ギャザーの寄せ方


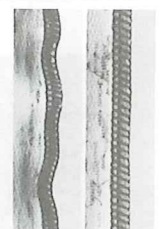
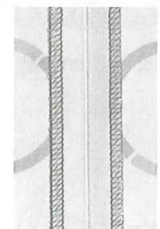
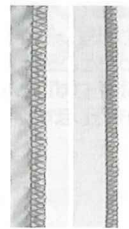
■差動調節つまみ

縫いちぢみや、縫い伸びしやすい布地は
差動調節つまみを使うと、平らに美しく仕上がります。

※この差動調節を応用して、
一枚の布地にギャザー寄せ（下記参照）
ができます。

送り歯の前歯と後歯の動きの速さを
変化させることにより調節ができます。



	縫い伸び しやすい布地			縫いちぢみ しやすい布地
布地	厚地ニット地 厚地ジャージー その他伸びる布地	中厚ニット地 メリヤス ジャージー	織布	ジョーゼット リネン、サテン ローン
差動つまみ目盛	N → 1 .5 ~2	N → 1.5	N (差動なし)	N → 0.7
差動調節有無の縫い目				

■ギャザーの寄せ方

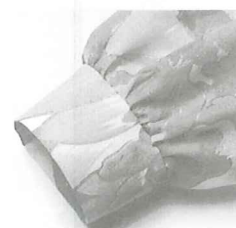
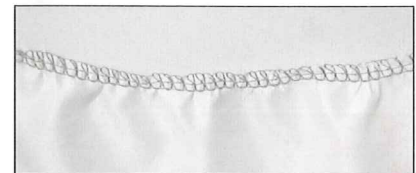
薄地、普通地の一枚の布地にギャザー寄せができます。
【例】 スリーブヘッド、裾、ヨーク、レース、フリルなど

1. 差動調節つまみの目盛を「2」に合わせます。
2. 送り調節つまみの目盛を「4」に合わせます。

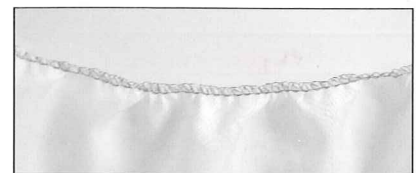
※極端にギャザーを寄せるときは縫い上がってから
針糸を指で引張ります。
※差動送りをしない場合、差動調節つまみを「N」に
戻します。



4 本系ギャザー寄せ



3 本系ギャザー寄せ



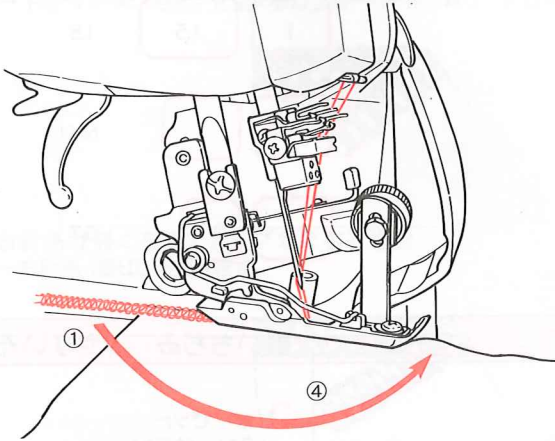
縫い始め、縫い終りの糸の始末

ロックミシンの場合、縫い始めと、終りの糸をそのままにしておくとはつれてしまします。縫い目を閉じてください。

1. ロックミシンでの始末

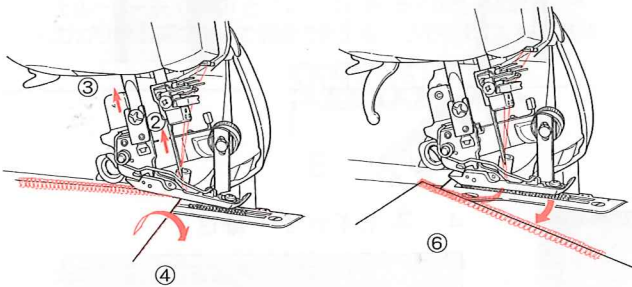
1) 縫い始めの糸の始末

- ① 縫い始めの空環を 3 ~ 4 cm 出します。
 - ② 布地を 2 ~ 3 針縫います。
 - ③ 針を下げ、押えを上げます。
 - ④ 空環を伸ばして、押えと布地の間に左側から入れます。
 - ⑤ 押えを下げて、空環の上から縫います。
- ※空環の上を縫わない場合は、縫い始めと縫い終わりは空環を長くします。そして空環を結んだり、トジ針で縫い目の中に入れることもできます。
- ※縫い目が互いにクロスした場合、空環は自動的に閉じられます。



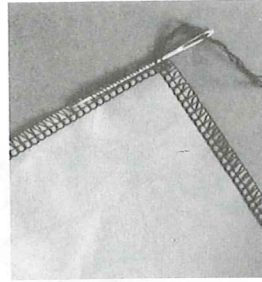
2) 縫い終りの糸の始末

- ① 布地の終りで針を止めます。
- ② 針を上げます。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 布地を裏返して、かがり幅に合わせて針を落します。
- ⑤ 押えを下げます。
- ⑥ 今まで縫ったところが上メスに当たらないように 2 ~ 3 cm 縫い進み、布地をはずします。
- ⑦ 空環の始末をします。



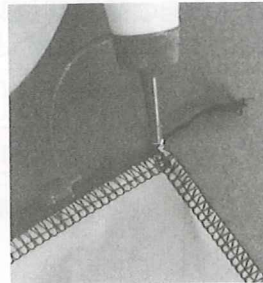
2. トジ針を使う始末:

縫い始め、終りの空環を 2 ~ 3 cm 残り、トジ針で縫い目の中に入れる方法です。



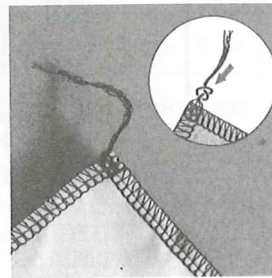
3. 手芸ボンドでの始末:

布上の空環の根元に手芸用ボンドを少しつけて乾燥してから余分な空環を落します。



4. 糸を結ぶ方法:

すべての糸を 1 本にまとめて結び、結び目を布上ぎりぎりまでの位置にします。そして余分な糸を落します。



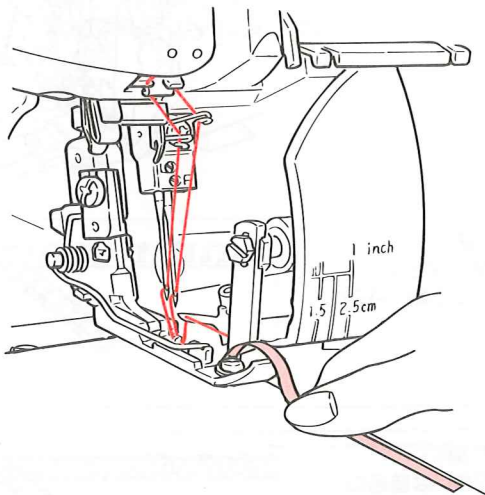
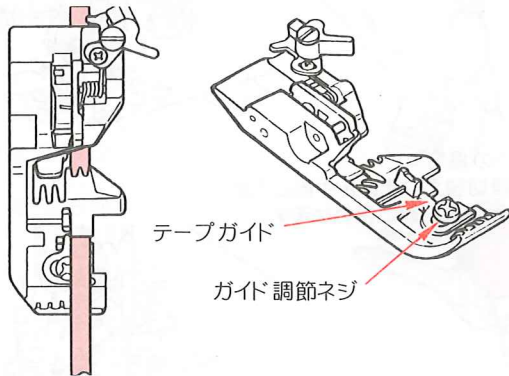
テープ付け

縫い途中で糸が切れたとき・ 縫い目のほどこき方

■テープ付け縁かがり縫い

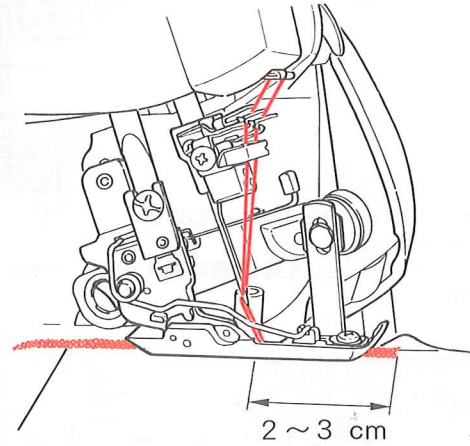
このミシンの押えにはテープ付け案内がついています。
ニット地などの伸縮性のある布地の肩線や脇線などに使用すると
伸び縮みしませんので、お試しください。

1. 針を一番上にします。
2. 押えを上げて、テープを押えのテープ入れ溝に右側から入れて、
押えを下げます。
3. ガイド調節ネジをゆるめてテープガイドをテープの幅に
合わせて、ガイド調節ネジをしめます。
4. はずみ車を手で回してテープを2～3針縫います。
5. 縫いつける布を押えの下におきます。
6. テープを軽く保持しながら縫います。



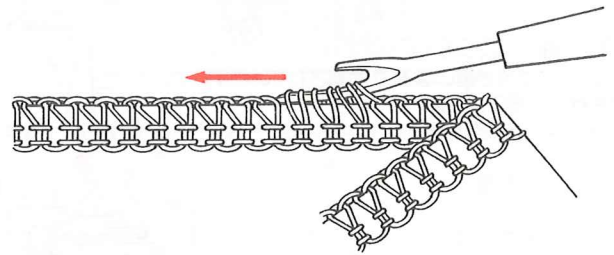
■縫っている途中で糸が切れたとき

1. すぐに縫いを中止して、布地をはずします。
2. 切れた糸をかけなおします。
※下ルーバー糸が切れた場合：針糸は針のところで切り、はずしま
す。そして最初下ルーバーに、次に針に糸を通します。
※上ルーバー糸が切れた場合：上ルーバーが一番下がった位置で糸
を通し、糸を約10 cm 後へ引き出して押えの下へ入れます。
3. 押えを上げ、布地をその下へ入れます。すでに縫われた縫い目の上を
2～3 cm 重ねて縫います。



■縫い目のほどこき方

市販のノッパー（目ほどこき）で布端の上ルーバー糸と下ルーバー糸を同時に
切り進みますと、布地をいためず縫い目が簡単にほどこけます。



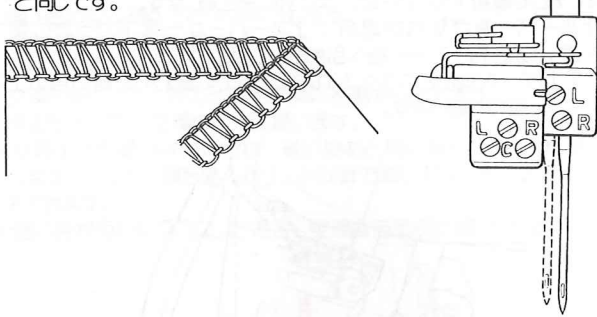
3 本系オーバーロック

巻き縫い

■ 3 本系オーバーロックの糸かけ

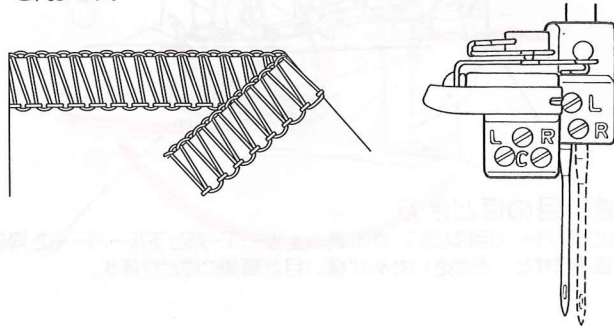
右針 (5 ~ 7 mm 幅) 縁かぎの場合

1. 左針を取り外します。
2. 上ルーパー、下ルーパーの糸通しは標準縫い (2 本針 4 本糸) と同じです。



左針 (5 ~ 9 mm 幅) 縁かぎの場合

1. 右針を取り外します。
2. 上ルーパー、下ルーパーの糸通しは標準縫い (2 本針 4 本糸) と同じです。

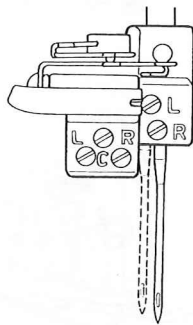


■ 巻き縫いについて

このミシンには巻き縫い装置が内蔵されていますので、全巻き縫いと細ロック縫いができます。裾や袖口など布端を自動的に巻き込みながら細く美しいかがりができます。

巻き縫いの準備

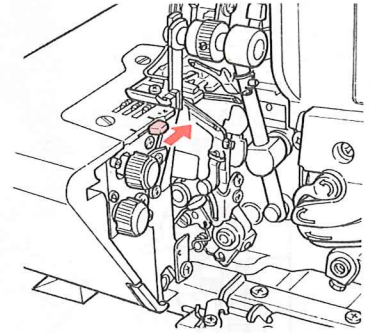
1. 左針をはずします。
2. かがり幅切替つまみを手前に引き、針板の手前の刻線に合わせます。
3. 下メス位置調節つまみの目盛を「1」に合わせます。
4. 送り調節ダイヤル(縫い目の長さ)を「1 ~ 1.5」にします。



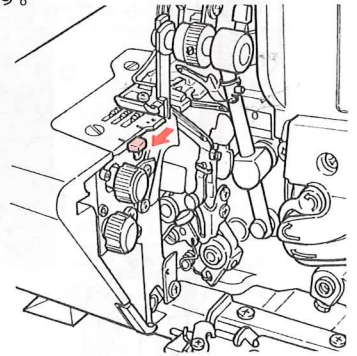
■ 縁かぎ縫いと巻き縫いの切替え

※はずみ車を回し、針を一番下にします。

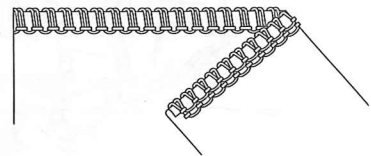
普通のかがり縫いの場合：
かがり幅切替つまみを向う側に押して針板の後ろ側の刻線に合わせます。



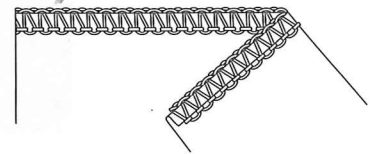
巻き縫いの場合：
かがり幅切替つまみを手前に引き針板の手前の刻線に合わせます。



- 全巻き縫い
全巻き縫いは上ルーパー糸で布端をくるむ縫い目です。



- 細ロック縫い
細ロック縫いは普通のかがり縫いのかがり幅の狭い縫い目です。



■ 巻き縫い (全巻き、細ロック) の糸調子の目安表

※糸調子は下記の目安表を参考にしてください。

布地や糸の種類によって多少異なります。
巻き縫いに使用するスパン糸は #90 までの細い糸を使ってください。
ウーリーナイロン糸は上ルーパー糸だけに使ってください。

糸調子ダイヤル 使用糸	全巻き縫いの場合			細ロック縫いの場合		
	針 糸	上 ルー パー	下 ルー パー	針 糸	上 ルー パー	下 ルー パー
スパン糸 #90	3 ~ 5	4 ~ 6	6 ~ 8	3 ~ 5	4 ~ 7	3 ~ 5
フィラメント糸 #80	2 ~ 4	2 ~ 4	5 ~ 7	3 ~ 5	4 ~ 6	3 ~ 5
ウーリーナイロン糸 (上ルーパー糸)	-	2 ~ 4	-	-	2 ~ 4	-

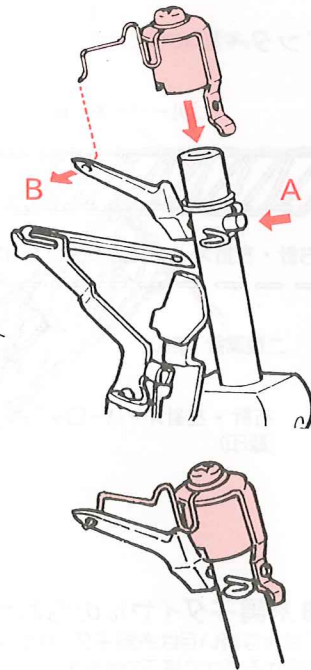
2 本系オーバーロック

インターロックの糸かけ順序 (1)

■ 2/3 本系切替アタッチメント

2本系のかがり縫いや飾り縫い（開き縫い）、2本系巻き縫いをしたい場合には2/3本系切替アタッチメントを使ってください。

1. 針を一番上まであげます。
2. 電源スイッチを切ってください。
3. ルーパーカーを開いてください。
4. ルーパーカーの中に入っている2/3本系切替アタッチメントを上ルーパーの軸にかぶせ、上ルーパー軸の凸部に、アタッチメントの穴をはめ込みます。(A)
5. 2/3本系切替アタッチメントの先端のフックを、上ルーパーの糸穴の後ろから前に差し込んでください。(B)
6. 上ルーパーがイラストのようにカバーされます。
7. このようにすると上ルーパー系は繙り出されませんが、下ルーパー系を繙り出して2本系の縫い目が形成されます。

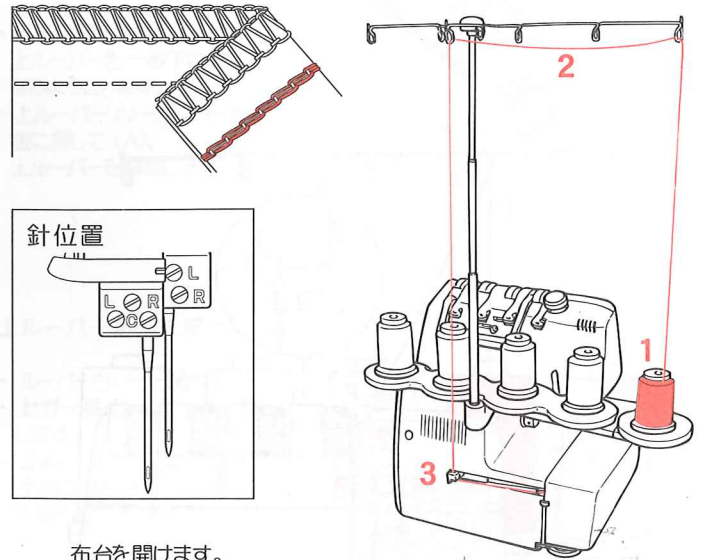


二重環ルーパー系（紫印）

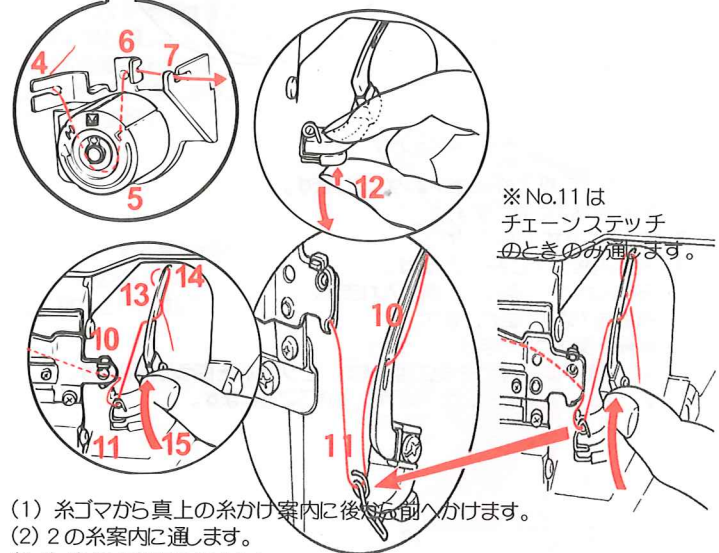
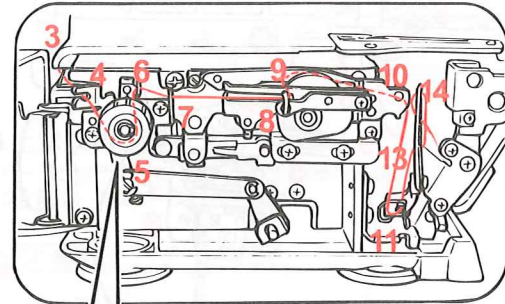
上ルーパー系については8ページを参照してください。

下ルーパー系については8ページを参照してください。

オーバーロックの左針については右針の糸調子ダイヤルをお使いください。（緑色の糸経路） 9ページ参照



布台を開けます。

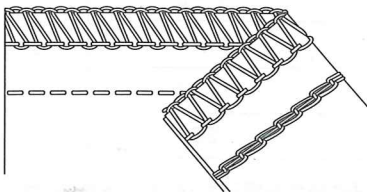


※No.11はチェーンステッチのときのみ通します。

- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後向きにかけます。
- (2) 2の糸案内に通します。
- (3,4) 糸かけ案内にかけます。
- (5) 糸調子ダイヤルに糸を掛けます
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。
- (6,7,8) 糸かけ案内にかけます。
- (9) 糸案内溝に糸を案内します。
- (10,11) 糸案内にかけます。
- (12) はずみ車を手前に回して、二重環ルーパーが一番左側に来るようにします。ルーパー糸通つまみを指で押し上げて、指ではさみながらルーパーを下方へ倒します。
- (13) ルーパーの後側から前へ糸を穴に通します。
- (14) ルーパー糸穴の前から後側に通します。
糸はルーパー糸穴から約10cm引き出して垂しておきます。
- (15) ルーパーを押し上げて、もとの位置に戻します。

■ インターロックとは

- オーバーロックとチェーンステッチ（二重環縫い）から成り立ちます。
- 布帛布地の縫い合わせとかがり縫いが同時にでき、シャツなどの脇縫いに多く使います。

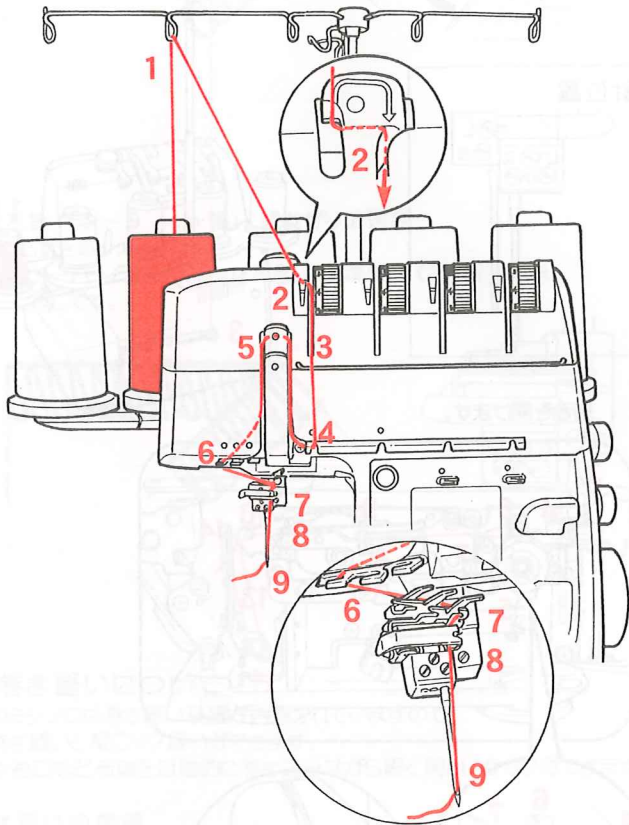
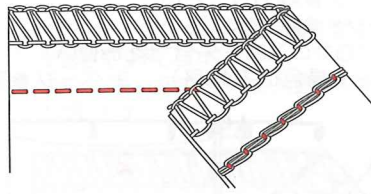


■ 準備

1. 布屑カバーを取り付けます。

糸かけ順序 (2)

二重環針 (R 針) (茶印)



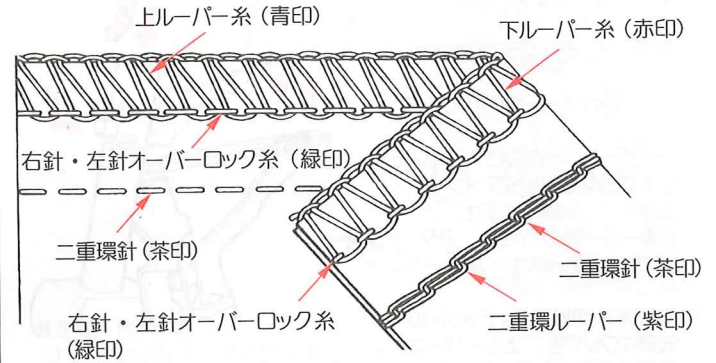
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1 糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー (茶印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (茶印) にかけます。
- (7) 針棒糸案内にかけます。
- (8) R 針の針穴に、前から後に通します。ピンセットを使うと便利です。
- (9) 針穴に通した糸を押えの下に入れ、後ろに出します。

正しい縫い目・糸調子の調整

■正しい縫い目

きれいな縫い目のときは、上下ルーバーの結節が布の端に揃っています。針糸の縫い目もまっすぐに見えます。

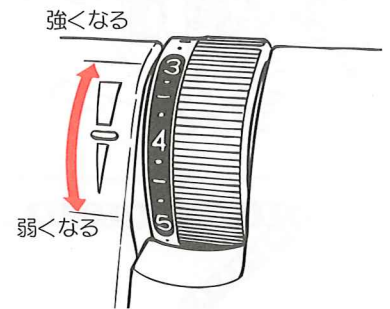
インターロック



■糸調子ダイヤルの合わせ方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛 (1~9) を調節するだけで修正できます。

上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。



1 本針 3 本糸 +
チェーンステッチの時の
ダイヤル目盛の目安

上ルーバー糸調子ダイヤル	3 ~ 5
下ルーバー糸調子ダイヤル	3 ~ 5
右針糸調子ダイヤル	3 ~ 5
左針糸調子ダイヤル (二重環針)	3 ~ 5
二重環ルーバー糸調子	M
下メスの幅	1 ~ 3
縫い目の長さ	2.5

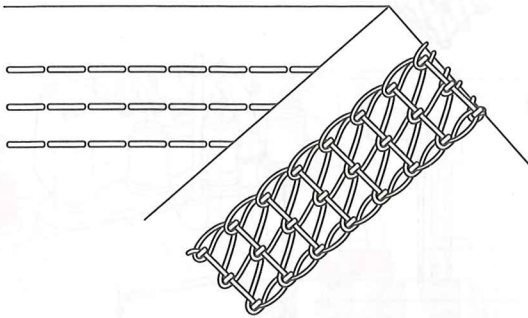
※ 1 本針 2 本糸 + チェーンステッチの時の糸調子は 34 ページを参照ください。
※ フィラメント糸やウーリーナイロン糸などは変化します。
※ 様々な縫いパターンによる糸調子の設定は 34 ページを参照ください。

カバーステッチ

■カバーステッチとは

- 5 mm 幅のカバーステッチは、2本か3本の針とルーバーから成り立ちます。
- 針糸は、2本又は3本の平行線として布の表側に出てきます。
- 2.5 mm 幅のカバーステッチは、2本針とルーバーから成り立ちます。
- ルーバーの糸は布の裏をカバーし、仕上げています。
- カバーステッチの伸縮性は、伸縮地の為のゆとりをもたせています。
- 空環を出さないで縫ってください。

(3本針カバーステッチ)



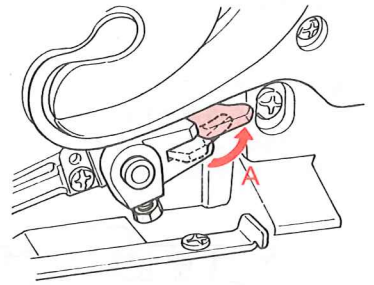
■準備

1. 上ルーバーを解除します。
2. 上メスを解除します。
3. 補助ベッドを取り付けます。

■上ルーバーの解除

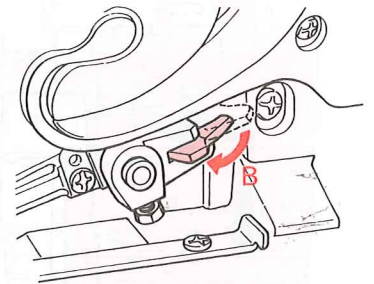
カバーステッチを行うためには、まず最初に上ルーバーを動かさないように固定する必要があります。

- ルーバーカバーを開きます。
- はずみ車を手前に回して、上ルーバーを一番下になるようにします。
- 上ルーバーリリースレバーを後に押して(A)、上ルーバーを解除します。



上ルーバーを元に戻すには

- ルーバーカバーを開きます。
- 針が一番低い点にくるようにします。
- 上ルーバーリリースレバーを手前に引き(B)、上ルーバーを動かすようにします。



■上メスの解除

カバーステッチやチェーンステッチの場合には、メスを解除してスペースが作れます。

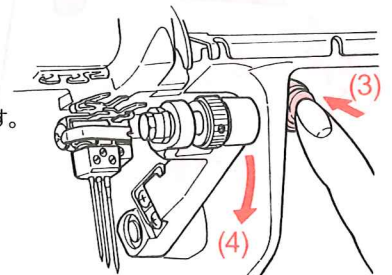
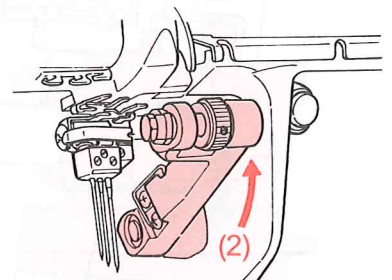
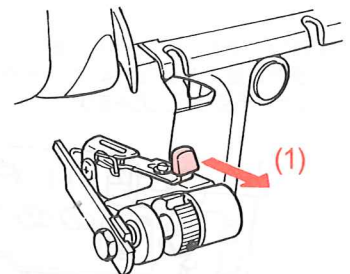
▲注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください。

上メスの解除

- ルーバーカバーを開きます。
- はずみ車を回し、メスが一番上になる位置で止めます。
- 上メスを上に解除します。(5ページ参照)

- レバー(1)を引きながら上メス揺動腕(2)を上跳ね上げます。

- 上メスを元に戻すには
 - 上メス揺動ボタン(3)を押します。(4)のように下がります。
 - 上メスを下げます。(ルーバーカバーを閉めます)



3 本針カバーステッチ 糸かけ順序 (1)

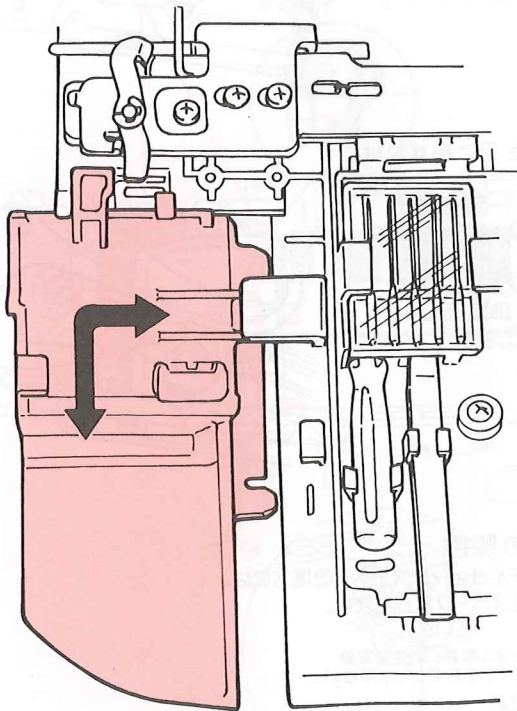
■ 布屑カバーと補助ベットの交換

カバーステッチやチェーンステッチの場合には、布屑カバーを補助ベットに交換する必要があります。

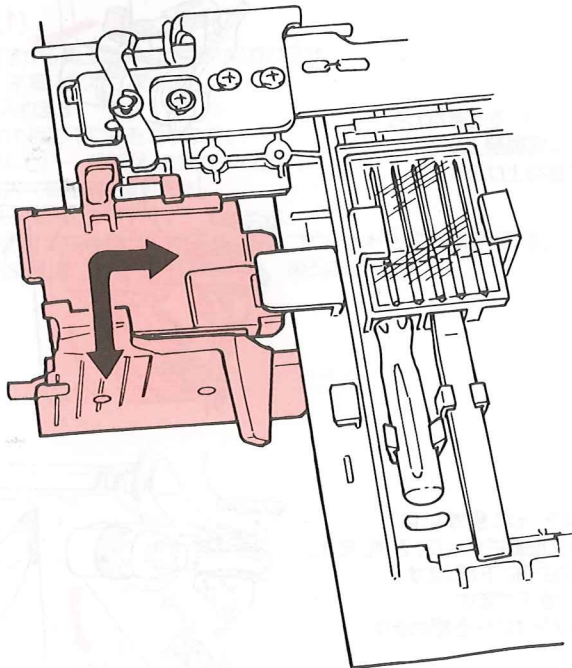
補助ベットは解除された上ルーパー部をカバーし、押えの右側にベット面を拡大します。

交換するには

- ・ ルーパーカバーを開けます。
- ・ 上メスを解除します。
- ・ 布屑カバーを左側に丁寧に引き張ります

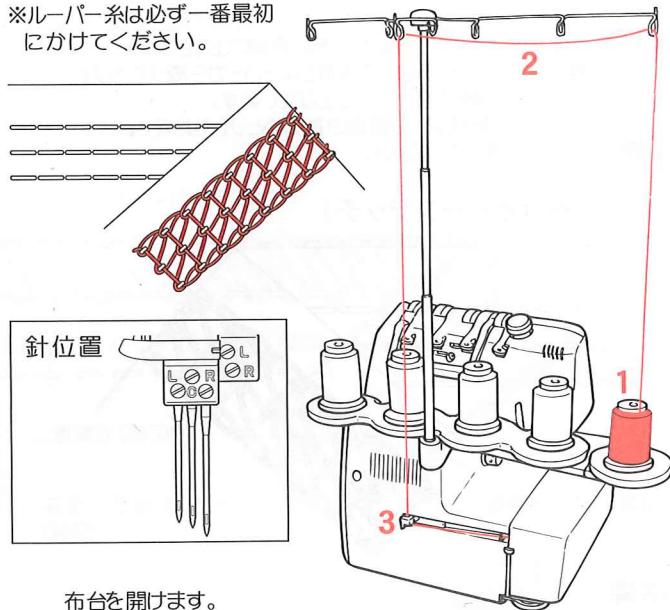


- ・ 補助ベットをルーパーカバーに差し込みます。
- ・ 二箇所差し込み口に対して、同時に差し込み、クリック感があるところまで押し込みます。

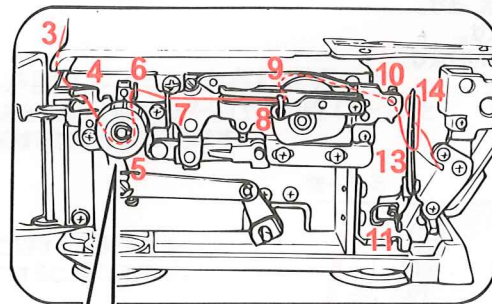


1. ルーパー糸の糸通し (紫印)

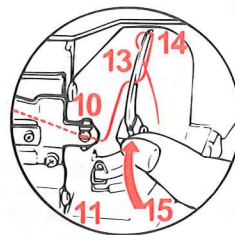
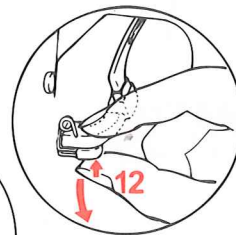
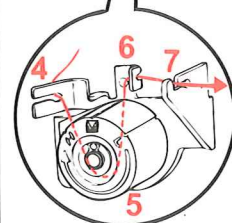
※ルーパー糸は必ず一番最初に掛けてください。



布台を開けます。



※No.11には
かけません



※No.11は
インターロック・チェーンステッチ
のときのみ通します。

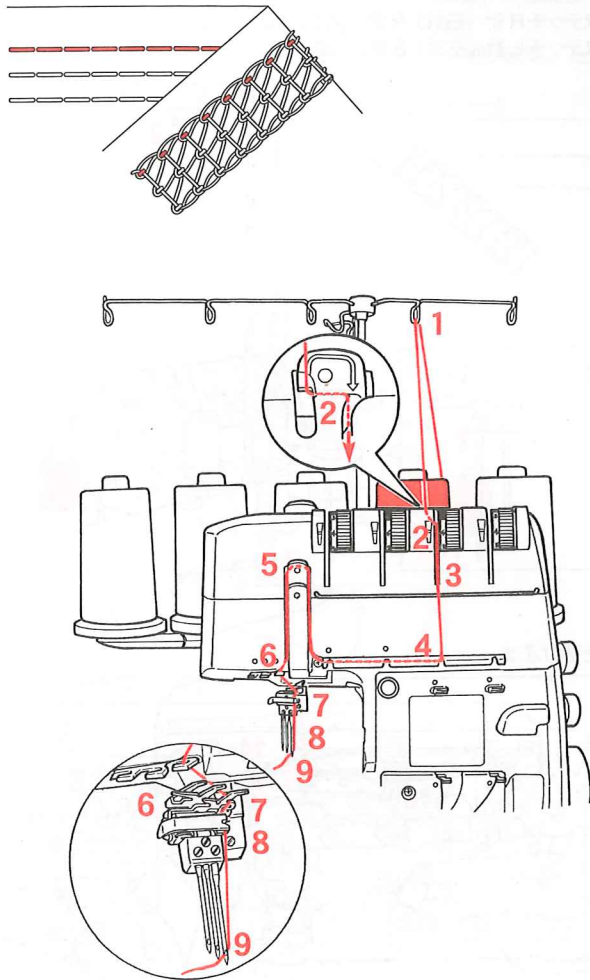
- (1) 糸コマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2) 2の糸案内に通します。
- (3,4) 糸かけ案内にかけます。
- (5) 糸調子ダイヤルに糸を掛けます
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。
- (6,7,8) 糸かけ案内にかけます。
- (9) 糸案内溝に糸を案内します。
- (10) 糸案内にかけます
- ※(11)カバーステッチでは使用しません。
- (12) はずみ車を手前へ回して、ルーパーが一番左側に来るようにします。
ルーパー糸通つまみを指で押し上げて、指ではさみながら
ルーパーを下方へ倒します
- (13) ルーパーの後ろ側から前へ糸を穴に通します
- (14) ルーパー糸穴の前から後ろ側に糸を通します。
糸はルーパー糸穴から約10cm引き出して垂らしておきます。
- (15) ルーパーを押し上げて、もとの位置に戻します。

糸かけ順序 (2)

※付属品の【カバーステッチ針糸通しシール】をカバーに貼ると便利です。

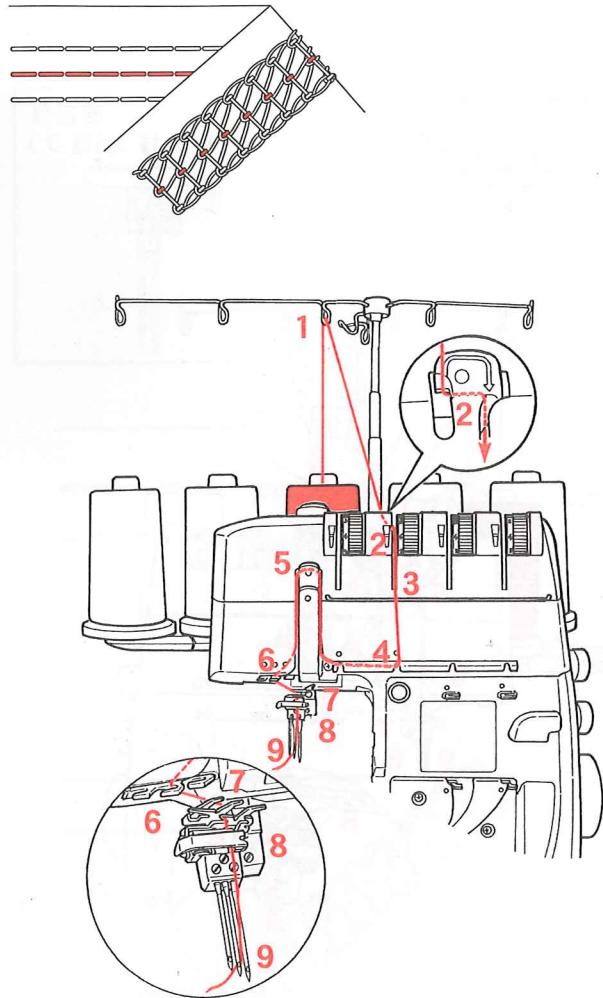
糸かけ順序 (3)

2. カバーステッチR針（右針）の糸通し（ピンク印）



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（ピンク印）の溝に入れます。
- (6) 糸案内（ピンク印）にかけます。
- (7,8) 針棒糸案内にかけます。
- (9) 右針（R針）の針穴に、前から後に通します。
ピンセットまたは針糸通し器を使うと便利です。
- (10) 針穴を通した糸を押えの下に入れます。

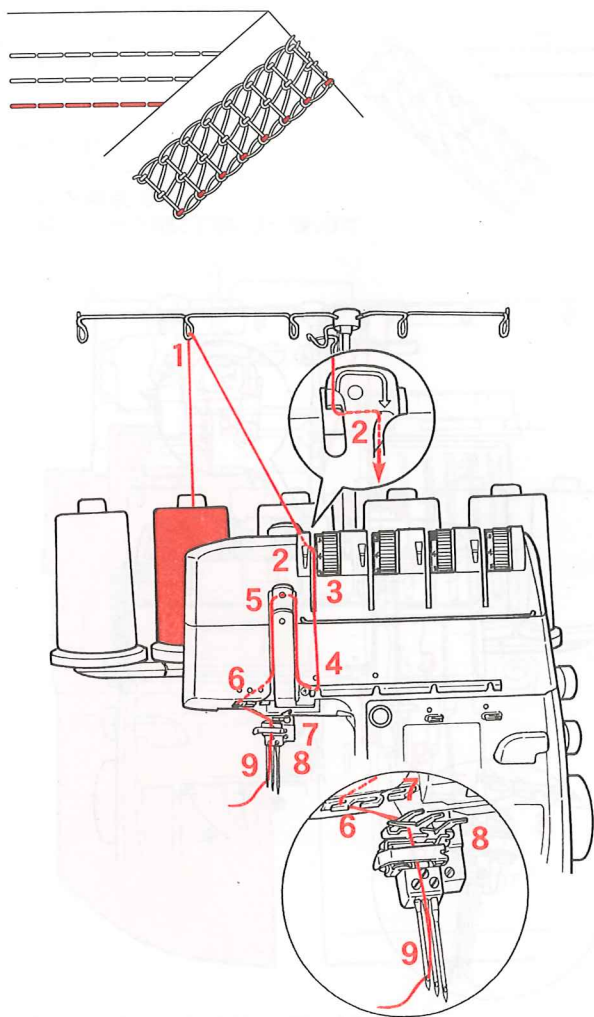
3. カバーステッチC針（中針）の糸通し（ピンク印）



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（ピンク印）の溝に入れます。
- (6) 糸案内（ピンク印）にかけます。
- (7,8) 針棒糸案内にかけます。
- (9) 中針（C針）の針穴に、前から後に通します。
- (10) 針穴を通した糸を押えの下に入れます。

糸かけ順序 (4)

4. カバーステッチL針 (左針) の糸通し (ピンク印)



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー (ピンク印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (ピンク印) にかけます。
- (7,8) 針棒糸案内にかけます。
- (9) 左針 (L針) の針穴に、前から後に通します。
ピンセットを使うと便利です。
- (10) 針穴を通した糸を押えの下に入れます。

*ルーバー糸を通しなおすときには、針糸を切って針穴から抜いてください。ルーバー糸を一番目に通して下さい。

標準糸調子

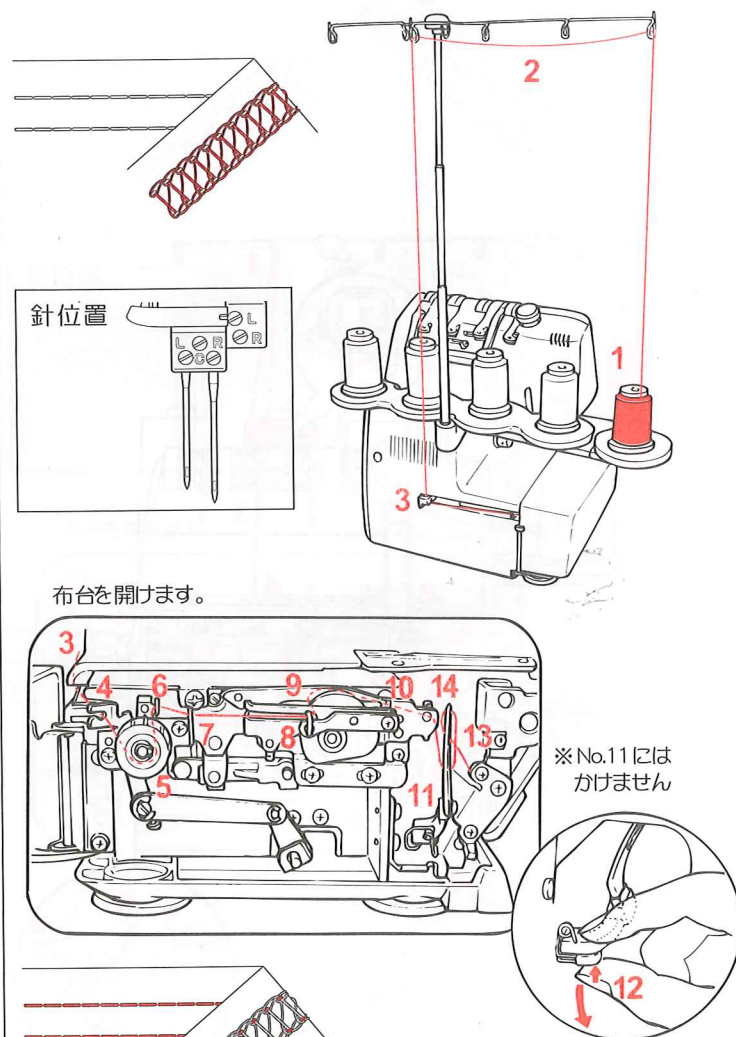
カバーステッチL針 (左針)	3~4
カバーステッチC針 (中針)	3.5~5
カバーステッチR針 (右針)	4.5~6
二重環ルーバー糸	M
ぬい目の長さ	3

通常、上ルーバーに使用する糸調子を、カバーステッチR針の糸調子として使用するため、糸調子の標準設定値が変わります。

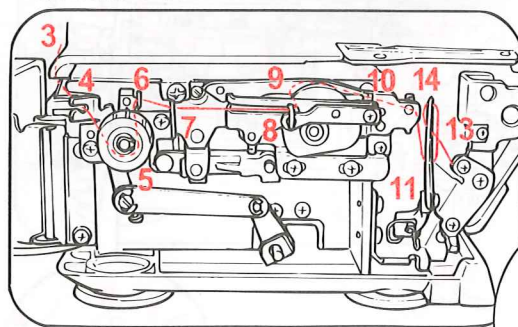
2 本針カバーステッチ

1. 2本針幅広カバーステッチ (5 mm 幅)

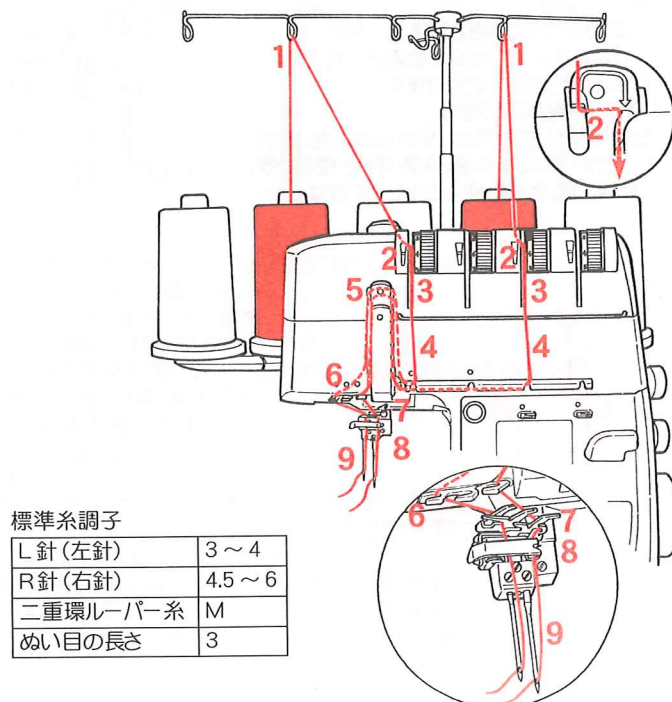
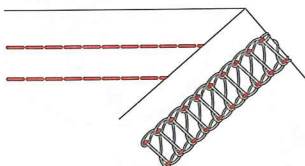
- ルーバーの糸かけ (紫印)
- カバーステッチR針 (右針) を使います。 (ピンク印)
- カバーステッチL針 (左針) を使います。 (ピンク印)



布台を開けます。



※No.11には
かけません

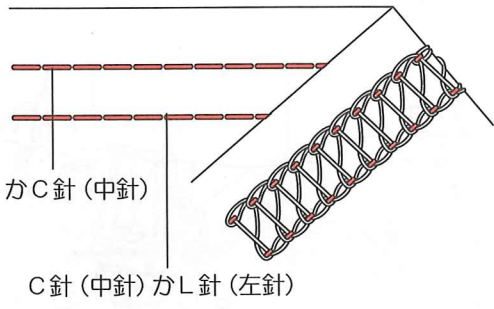
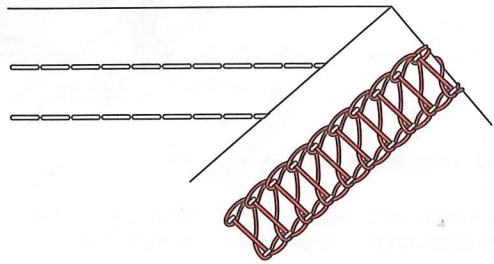
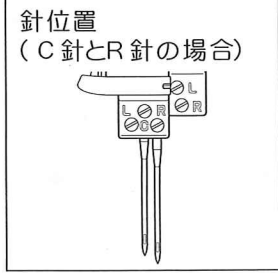
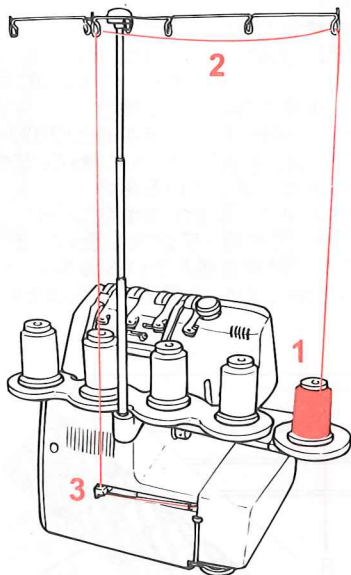


標準糸調子

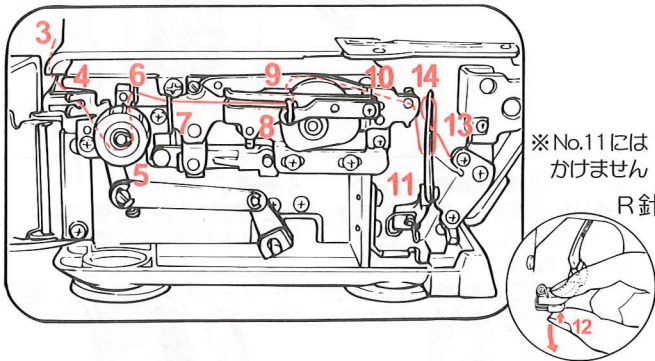
L針 (左針)	3~4
R針 (右針)	4.5~6
二重環ルーバー糸	M
ぬい目の長さ	3

2. 2本針幅狭カバーステッチ (2.5 mm幅)

- ルーパーの糸かけ (紫印)
- カバーステッチC針 (中針) を使います。 (ピンク印)
- カバーステッチRかL針 (右針か左針のどちらか) を使います。 (ピンク印)



布台を開けます。

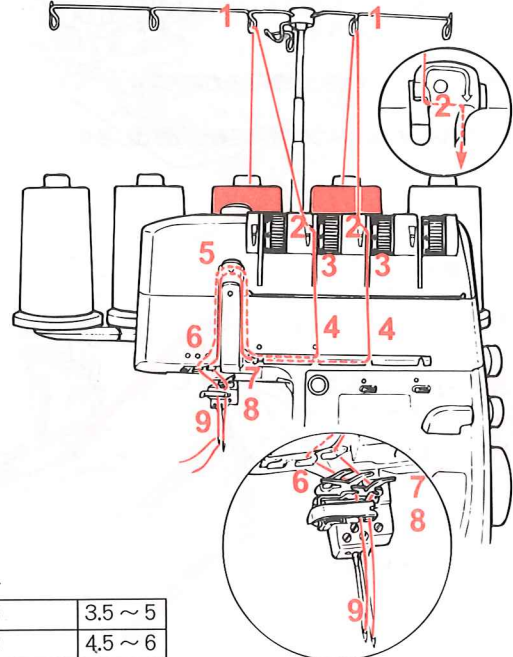
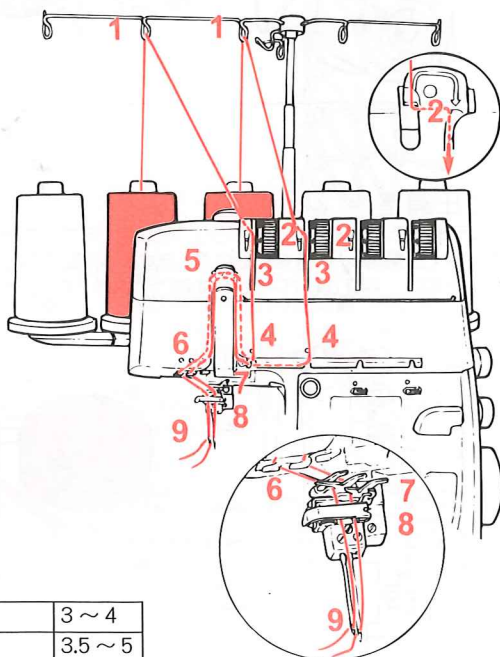


R針 (右針) かC針 (中針)

C針 (中針) かL針 (左針)

C針 (中針) L針 (左針) の場合

C針 (中針) R針 (右針) の場合



標準糸調子

L針 (左針)	3~4
C針 (右針)	3.5~5
二重環ルーパー糸	M
ぬい目の長さ	3

標準糸調子

C針 (左針)	3.5~5
R針 (右針)	4.5~6
二重環ルーパー糸	M
ぬい目の長さ	3

ためし縫い

■糸かけが終わったら、ためし縫いをしてみましょう。
二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか調べます。

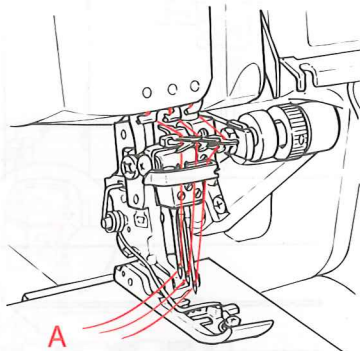
カバーステッチは空環が出ないため、
布地のないところでは、縫わないようにご注意ください。

1. 縫い始め

- (1) 電源スイッチを入れます。
- (2) 送り調節つまみを「3～4」に
差動調節つまみをNの位置に
セットします。

- (3) 押えを上げて、布を押え
の下にセットします。(A)

注意：この時必ず押えの
下の奥まで布を入れます。



- (4) 押えを下げます。
- (5) 1針目は、はずみ車を手前側に回し針を落とします。
- (6) スタートさせます。
- (7) 布・糸の組み合わせによって、糸調子ダイヤルの数値は変化しますので、
正しい縫い目を参照しながら、糸調子ダイヤルを調節します。

2. 縫い終り

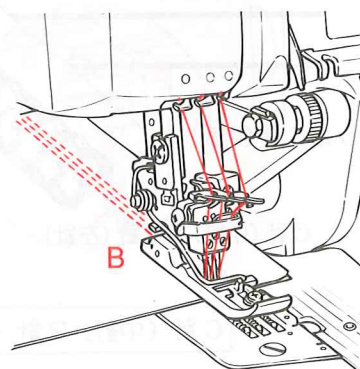
- (1) この縫い目では空環は
出ませんので、布端を
越えないように注意して
ミシンを停止します。

- (2) 縫い終わった時、針の高さ
が一番低くなるまではずみ
車を手前側に回します。(B)

- (3) その後、針が一番高い位置
に来るまで、はずみ車を
逆回転（後側向き）させます。
この時に、初めて、針糸がルーバーから外れて
布が外せるようになります。

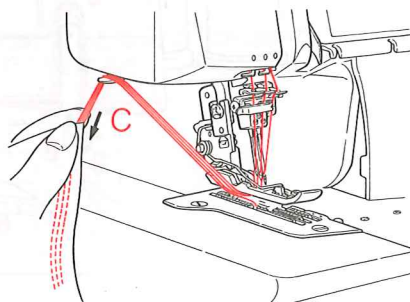
- (4) 押えを上げます。(同時に糸調子皿が開きます。)

- (5) 縫い目がほつれないように押えて布を引き出します。



3. 糸の切断

押えを上げて引き出した
糸は、面部カッターに
かけて切ります。(C)

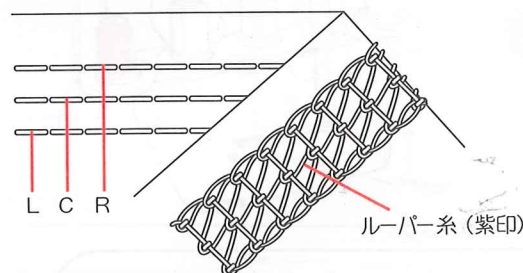


糸調子の調整

■糸調子の調整の仕方

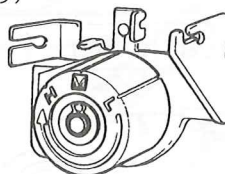
不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛（1～9）と
ルーバー糸調子調節つまみを調節するだけで修正出来ます。

- 右針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチR針（右針）を強くします。(ピンク印)
この時の糸は、上ルーバーの糸調子ダイヤルに通っています。
- 中針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチC針（中針）を強くします。(ピンク印)
この時の糸は、右針の糸調子ダイヤルに通っています。
- 左針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチL針（左針）を強くします。(ピンク印)
この時の糸は、左針の糸調子ダイヤルに通っています。
- ルーバー糸が布の裏側で緩んでいる場合：
ルーバー糸調子を強くします。(糸調子ダイヤルは布台中：紫印)



< ルーバー糸調子調節つまみ >

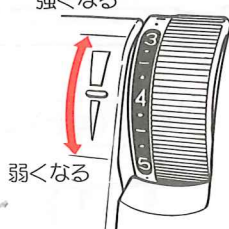
- 標準的な糸調子は、[M]にします。
 - 強くする為には、[H]にします。
 - 弱くする為には、[L]にします。
- (M,H,Lの範囲を超えて矢印と反対方向へ無理に回すと壊れる可能性があります)



< 糸調子ダイヤル >

- 上に回すと糸調子が強くなり、
下にすると弱くなります。

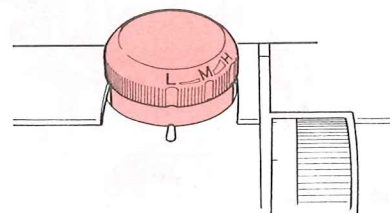
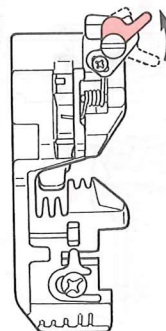
強くなる



弱くなる

■押え圧調整

カバーステッチで、水着やスポーツウエアなど、布がよれ易い生地を
縫う時、押え圧解除レバーを後ろ側に押します。同時に押え圧調整も[L]に
します。通常は、押えのレバーは手前側にしておいてください。

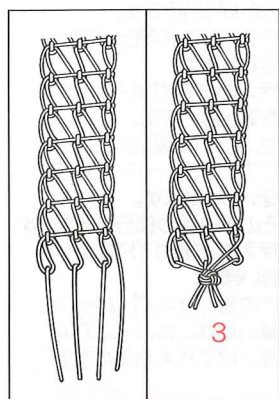
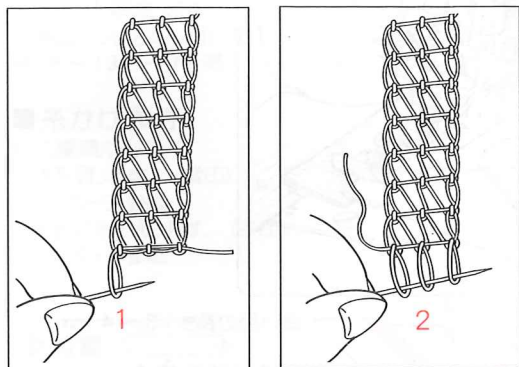


縫い終りの糸の始末

■縫い終りの糸の始末

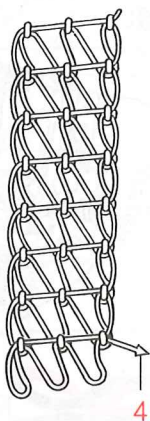
1. 図中(1)の輪になっているルーパー糸を左側に引っ張りずらします。
2. ルーパー糸を上側に抜き、針糸(右・左・中共)を引っ張り出します。
3. 結びます。

*縫い始めについては、自動的に次の縫い目でしっかりと締められます。



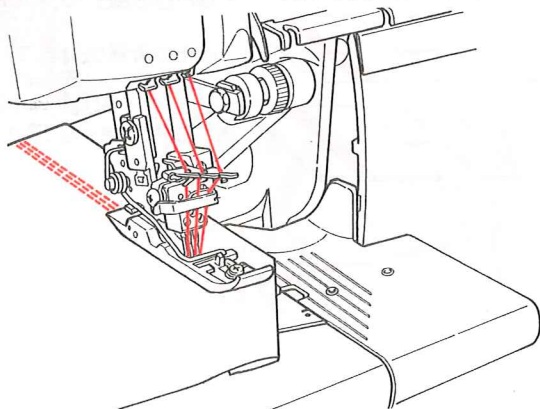
■縫い目をほどこきたい場合

1. この縫い目は、縫い終わり側のルーパー糸(4)を引っ張ることによってほどこけます。
2. この後、表側から針糸を引っ張れば、針糸は抜けます。



■補助ベットのガイド線について

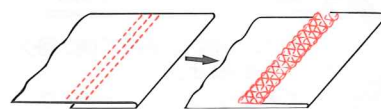
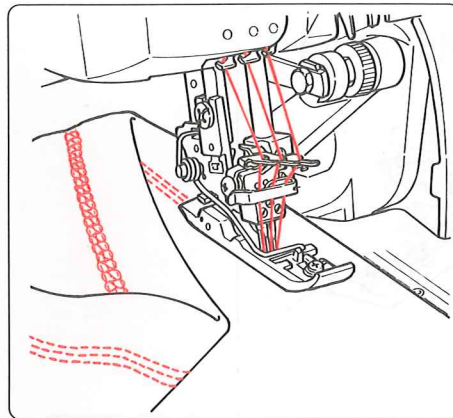
補助ベットのガイド線は、布端からの一定の寸法で縫う時に使います。



使用例(1)

1. すそ上げ

この縫い方では、すそ上げが出来ると同時に、裏側の布端も縫い目で押え込まれます。

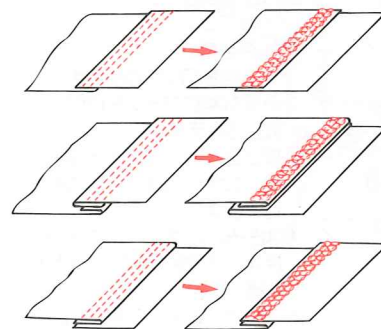
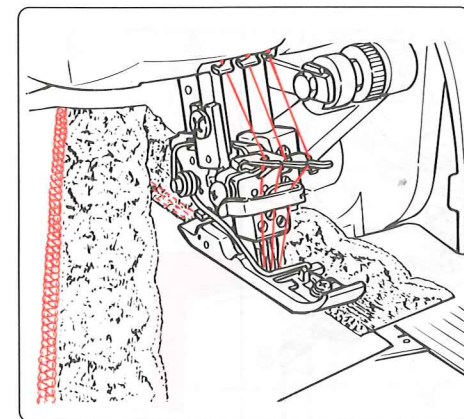


縫い目の長さ: 3~4 mm

- ①すそ上げしたい幅を折り込みます。
- ②布地を押えの下に置き、補助ベットあるいは針板のラインにそって、布をガイドしながら送ります。

2. レース付け

ゴムやレースを縫う時、それらを布地の上に置き、縫い代の上を縫うと裏側の布端も縫い目で押え込まれます。



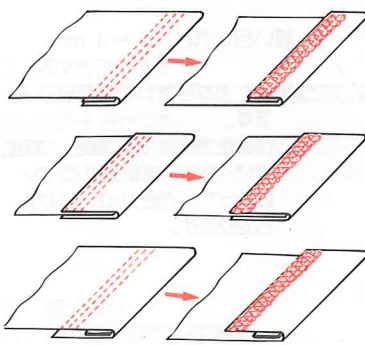
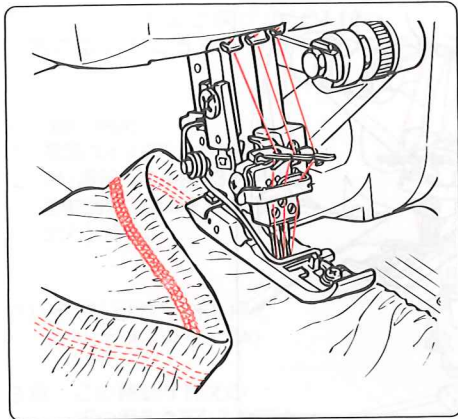
縫い目の長さ: 3~4 mm

- ①上の布地の端を折り込みます。
- ②上と下の布端を重ねます。
- ③押えのガイドに従って、布地の端をガイドします。

使用例 (2)

3. ゴムテープ付け

カバーステッチは、弾力性と耐久性があり、引っ張っても元に戻りますので水着、トレーニングウェア、子供服、スカート、ズボンの腰バンドに向いています。

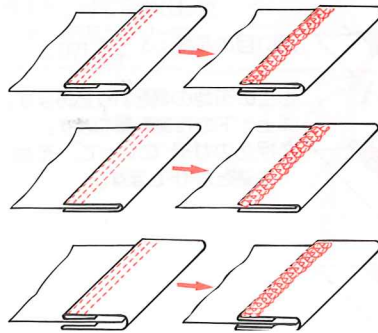
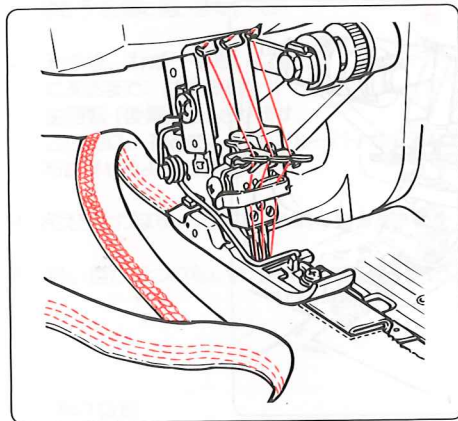


縫い目の長さ : 3 ~ 4 mm

- ①ゴムの幅に、布を下側に回り込ませます。
- ②表側からカバーステッチで縫います。
- ③押えの右端に沿って折り目をガイドします。(ゴムも布と同時に縫い込みます)

バリエーション：
ゴムの幅より大きく布を下側に折り込み、ゴムをその内側に入れ込んでしまいます。ゴムを縫い込まずに、布端をカバーステッチで縫うことができます。

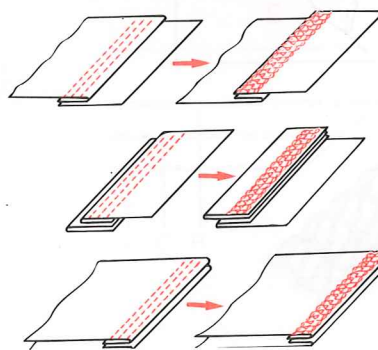
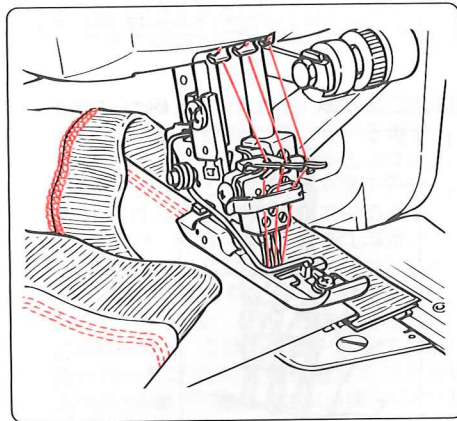
4. 三ツ巻縫い



縫い目の長さ : 3 ~ 4 mm

- ①必要な幅に、パイヤステーや布地を切っておきます。
- ②必要な幅にマークを付け、折り込みます。
- ③折り込んだテープを布端に沿ってガイドします。(はさみ込みます)
- ④はさみこんだテープの左端を、押えの左側のガイドにそわせて縫います。
- ⑤この時、裏側の布端は、縫い目で押え込まれます。

5. リブ付け・伏せ縫い



縫い目の長さ : 3 ~ 4 mm

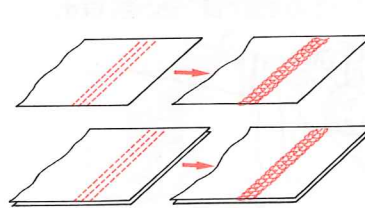
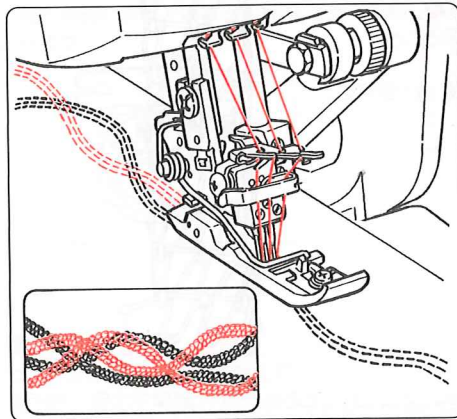
リブ付けの場合

- ①布を折り込みます。
- ②折り込んだ布端とリブを合わせます。
- ③押えの右側ガイドに沿って布端を縫います。

伏せ縫いの場合

- ①リブと布をオーバーロックで縫い合わせます。
- ②その縫い目の部分を開きます。
- ③押えの右側ガイドに沿って縫います。
- ④この時、オーバーロックの縫い目は、カバーステッチの縫い目で押え込まれます。

6. 飾り縫い



縫い目の長さ : 3 ~ 4 mm

- ①布の裏側から縫って、表側が使えるように縫います。
- ②ルーバー糸に飾り糸を使うと効果が大きくなります。

チェーンステッチ

■チェーンステッチとは

二重環ルーバー糸と本の針糸から成り立ちます。
 ・針糸は直線として布の表側に出てきます。

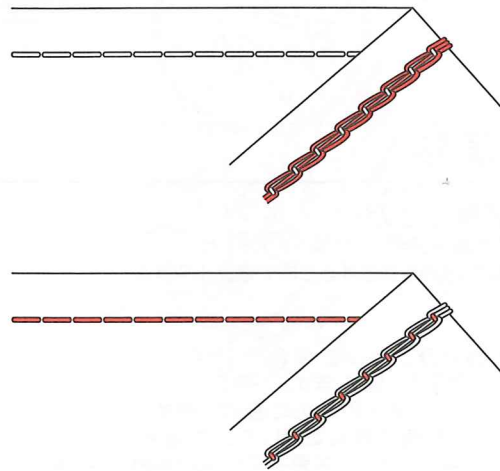
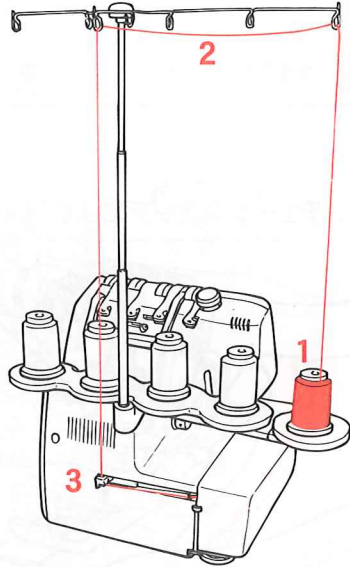
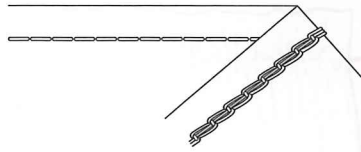
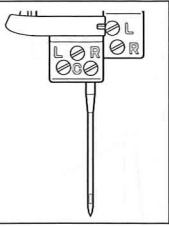
■準備

1. 上ルーバーを解除します。
 2. 上メスを解除します。
 3. 補助ベッドを取り付けます。
- ※ 18～19 ページ参照

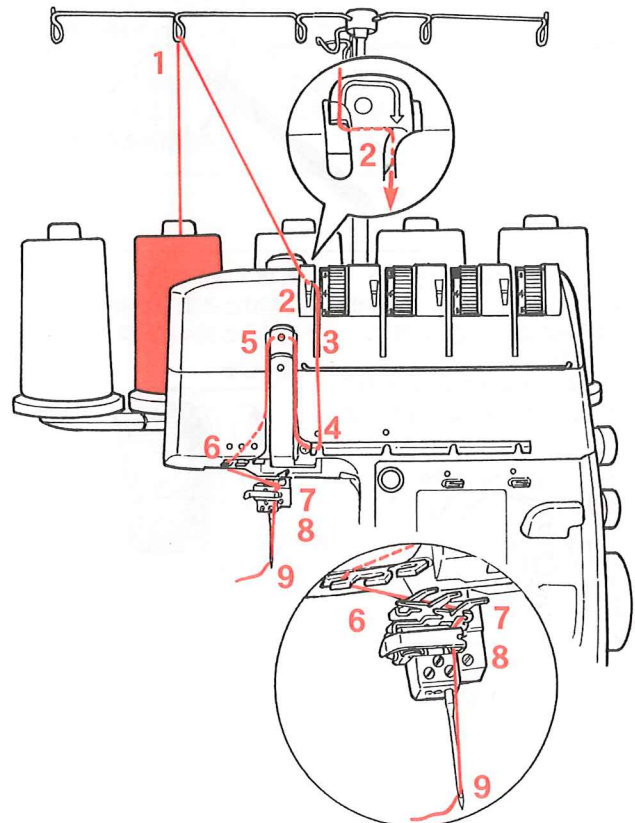
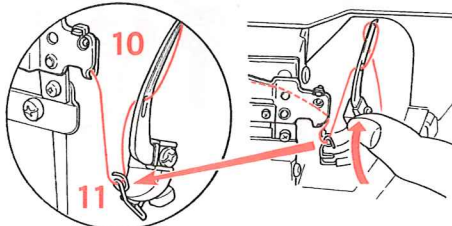
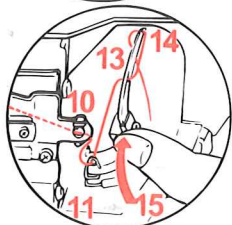
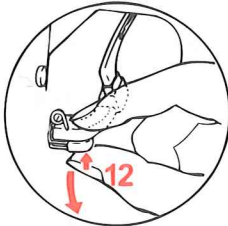
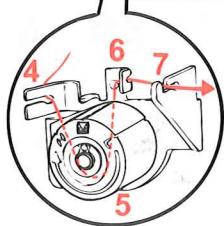
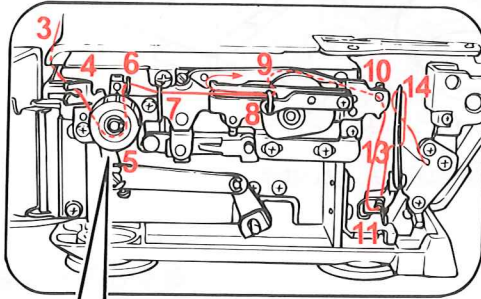
■糸かけ順序

1. 二重環ルーバーに糸を通します。(紫印) 16 ページ参照
2. R 針に糸を通します。(茶印) 17 ページ参照

針位置



布台を開けます。



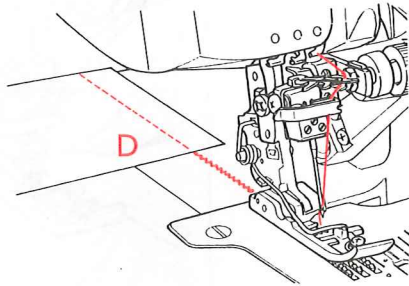
標準糸調子

R 針	3～5
二重環ルーバー糸	M
ぬい目の長さ	2.5

ためし縫い

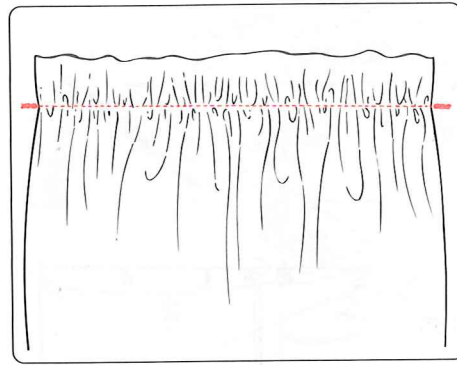
■糸掛けが終わったら、ためし縫いをしてみましょう。
二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか調べます。

空環がでますので通常のオーバーロックと同じように後ろ側に引っぱり抜いてください。(D)



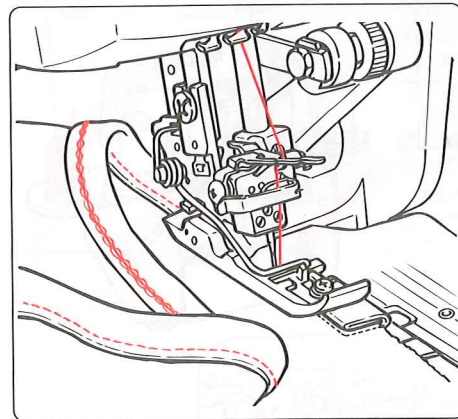
使用例

1. チェーンステッチによるギャザリング
一枚の布をチェーンステッチと差動調節によって縫えます。



差動調節：2
送り調節：4

2. チェーンステッチによるバイアステープ付け



縫い目の長さ：3～4 mm

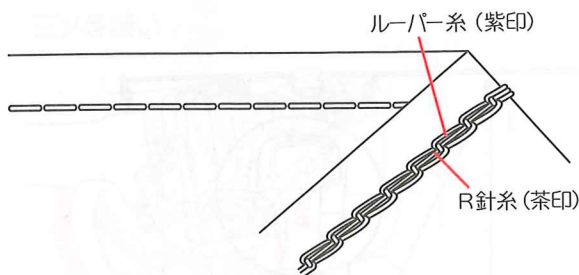
バイアステープで布端を包み込み、縫います。

糸調子の調整

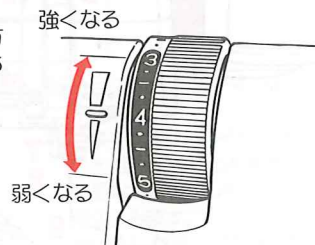
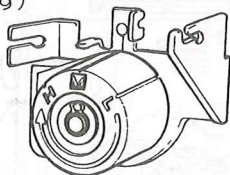
■糸調子の調整の仕方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛(1～9)とルーバー糸調子調節つまみを調節するだけで修正出来ます。

- 針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチR針(右針)を強めます。(茶印)
この時の糸は、左針の糸調子ダイヤルに通っています。
- ルーバー糸が布の裏側で緩んだりしていた場合：
ルーバーテンションを強めます。(糸調子ダイヤルは布台の中：紫印)



- ＜ルーバー糸調子調節つまみ＞
- 標準的な糸調子は、[M]にします。
 - 強くする為には、[H]にします。
 - 弱くする為には、[L]にします。
- (M,H,Lの範囲を超えて矢印と反対方向へ無理に回すと壊れる可能性があります)
- ＜糸調子ダイヤル＞
- 上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。



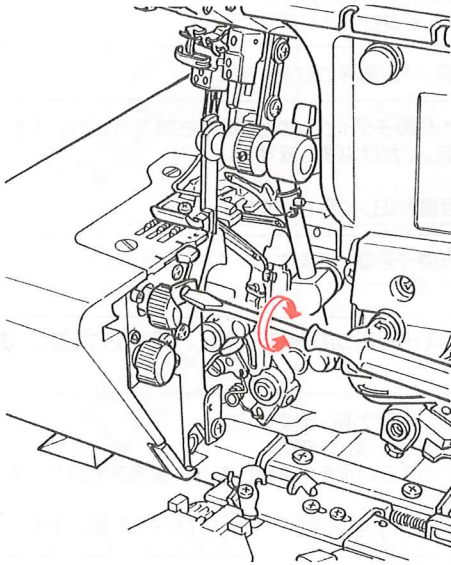
■上メスの交換

上メスは特殊超硬材を使用していますので、普通は交換する必要はありませんが、刃先がかけたとき交換します。そのときは、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

■下メスの交換

▲注意 メス交換のときは電源スイッチを切ってください。

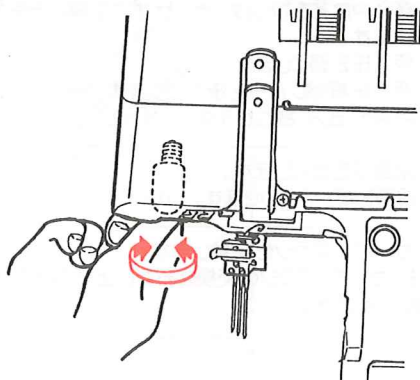
1. はずみ車を手前に回し、針を一番上に戻します。
2. 上メスを解除します。
3. ドライバーで下メス押え板止めネジをゆるめ、下メスをとりはずします。
4. 新しい下メスを下メスホルダーの溝に入れ、上下調節器にあてます。(下メスの刃先が針板上面と同じ高さになります。)
5. 最後に下メス押え板止めネジを強く締めて、固定します。



■ランプの交換

▲注意 ●ランプは冷えてから交換してください。
●ランプ交換のときは電源スイッチを切ってください。

ランプをはずし、新しいランプをとりつけます。
ランプ消費電力は15Wです。
お買い上げ販売店でお買い求めください。



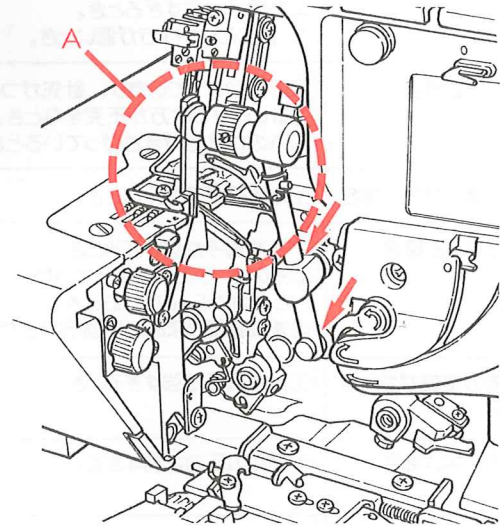
■掃除と注油

▲注意 掃除、注油のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜き電源を切ってください。

ミシンをご使用になりますと、綿ほこりがたまりやすいため定期的にとり除きます。

針板と下メスのまわりには、綿ほこりがたまりやすいため、定期的に取り除いてください。(A)

このミシンには重要な部分に特殊材料を使用していますが使用前に図示したところへミシン油を1～2滴注油してください。



注意：

- ・炎症、かぶれを防ぐため、目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
- ・下痢、嘔吐を防ぐため、誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- ・子供の手の届かないところに置いてください。
- ・油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

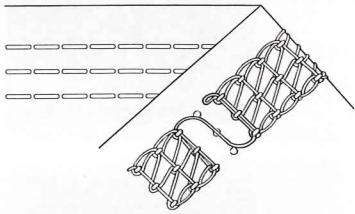
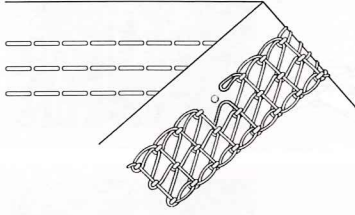
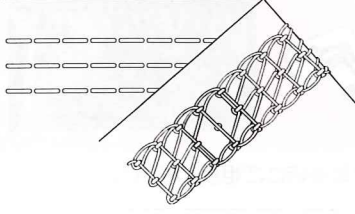
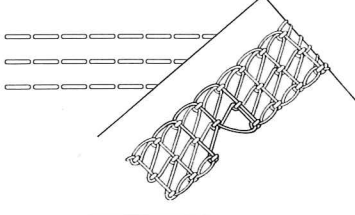
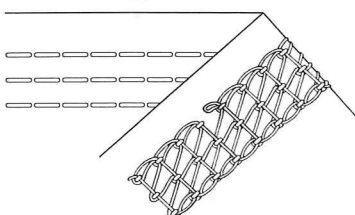
■サービスをお申し付けになる前に

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申し付けになる前に、もう一度お確かめください。

	現象	原因(理由)	処置方法	ページ
オーバーロックの場合	布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎる時。	・押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	6
	針が折れる場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 ②針のとりつけ方が悪い時。 ③布地を無理にひっぱった時。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・縫っているときは布端に手をそえるだけにします。	7 7 -
	糸が切れる場合	①糸のかけ方がまちがっている時。 ②糸調子が強すぎる時。 ③針のとりつけ方が悪い時。	・正しくかけなおします。 ・糸調子を弱くします。 ・正しくとりつけます。	7,8,9 10,11 3,7
	目とびがする場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 ②針のとりつけ方が不完全な時。 ③糸のかけ方がまちがっている時。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・正しくかけなおします。	7 7 7,8,9
	縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全な時。	・正しい糸調子になおします。	10,11
	縫いシワがよる場合	①針糸調子が強すぎる時。 ②糸のかけ方がまちがっていたり、必要以外の場所に糸がからんでいる時。 ③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・針糸調子ダイヤルの目盛を小さい方へ合わせます。 ・正しくかけなおします。 ・目盛を正しく合わせます。	10,11 7,8,9 12
	縫った後の布端がカールする場合	①針糸調子が強すぎる時。	・糸調子を弱くします。	10,11
カバーステッチの場合	布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎる時。	・押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	6
	糸が切れる場合	①糸掛けが間違っている時。 ②糸調子が強すぎる時。 ③針の取り付け方が悪い時。 ④正常な針が使われていない時。	・正しくかけ直します。 ・糸調子を弱くします。 ・針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。 ・シユメツツ家庭用針(130/705H)を使います。	19,20,21 23 3,7 7
	針が折れる場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 ②針の取り付け方が悪い時。 ③縫っている最中に無理に引っ張った時。	・新しい針に取り替えます。 ・針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。 ・布はいいに両手でガイドします。	7 7 -
	目飛びがする場合	30 ページ参照	30 ページ参照	-
	縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全な時。 ②糸が引っかかる時。	・糸が糸調子ダイヤルの血の間にきちんと入っているかどうか確認します。 ・3本の糸の糸通し間違っていないかどうか確認します。	- 19,20,21
	縫い目(縫った物)が伸びてしまったり波打っている場合	①縫い中に布が引っ張られた時。 ②押え圧が強すぎる時。 ③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・縫い中に布をひっぱたりせずに丁寧に布をガイドします。 ・押え圧を弱くします。 ・押え圧解除レバーを後ろにします。 ・目盛を正しく合わせます。 N~2	- 6 23 12
	縫い目(縫った物)が縮んでしまっている場合	①針糸調子が強すぎる時。 ②差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・糸調子を弱くします。 ・目盛を正しく合わせます。 0.7~N	23 12
共通	モーターの故障	①雑音がる。 ②モーターが全然回らない。 ③火花が異常に大きい。	・カーボンブラシを交換します。 (注)カーボンブラシの交換はお買い上げの販売店に依頼してください。	-

上記の方法でも直らないときは、お買い上げ販売店にご相談ください。

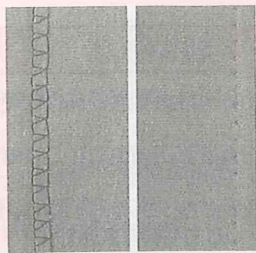
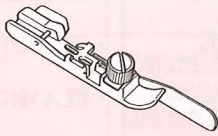
目飛びがする場合

現象	原因(理由)		処置方法
<p>カバーステッチR, C, L 針の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーが針系 (R,C,L) のループをすくわなかったとき。 	<ol style="list-style-type: none"> ①針の糸調子がきつくないですか。 ②針系の糸かけは正しいですか。 ③針が曲っていたり、針先がつぶれていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 糸調子を弱めに調整します。 • 正しくかけ直します。 • 新しい針に取り替えます。
<p>カバーステッチR針(右針)の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーがR針系のループをすくわなかったとき。 		
<p>カバーステッチC針(中針)の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーがC針系のループをすくわなかったとき。 		
<p>カバーステッチL針(左針)の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーがL針系のループをすくわなかったとき。 		
<p>カバーステッチR針(右針)の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • R針が二重環ルーバー糸の形成する三角形のエリアに針落ちなかったとき。 	<ol style="list-style-type: none"> ①二重環ルーバーの糸通しは正しいですか。 ②針系の糸調子が緩くないですか。(布裏で針系が浮いていませんか) ③二重環ルーバーの糸調子が緩くないですか。 ④送り目盛が「3」より小さくなっていませんか。 ⑤針系の糸かけは正しいですか。 ⑥針が曲っていたり、針先がつぶれていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 正しくかけ直します。 • 糸調子を強めに調整します。 • 糸調子を強めに調整します。 • 送り目盛を「3」以上にします。 • 正しくかけ直します。 • 新しい針に取り替えます。

■別売品

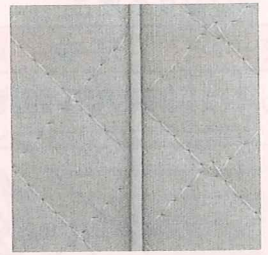
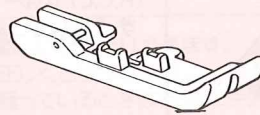
●ブラインドステッチ押え

スカート、ズボンの裾、
Tシャツの袖口、
裾の処理に!



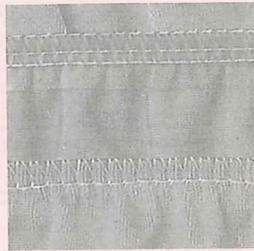
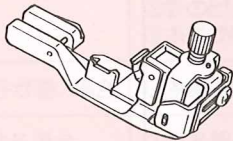
●パイピング押え

トレーナーのアクセントや
バックのコーナーに!



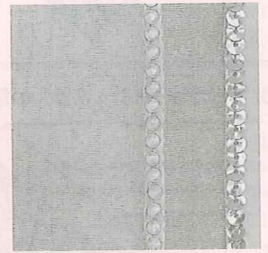
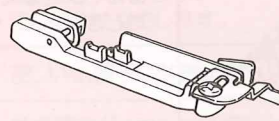
●ゴムテープ付け押え

水着、レオタード、
衣服のゴム入れに!



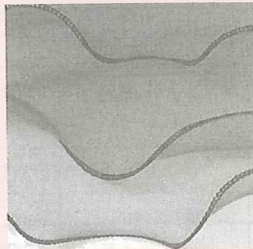
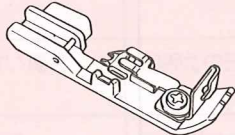
●パール付け押え

ドレスや
ブラウスのかざり付けに!



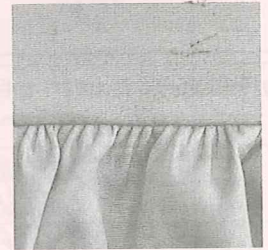
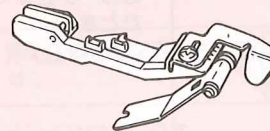
●コーディング押え

ドレスの裾、ブラウスの衿、
形くずれ防止に!



●ギャザリング押え

スカートや
ブラウスの肩のギャザリングに!



別売品のお求めは、お買い上げ販売店にご相談ください。

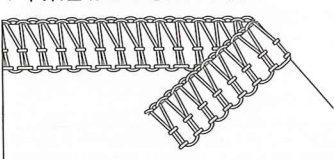
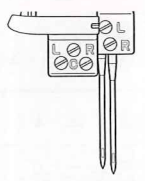
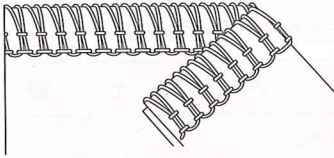
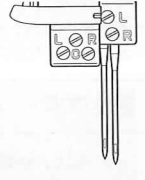
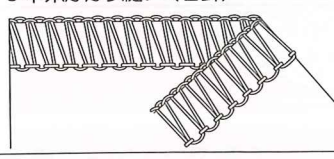
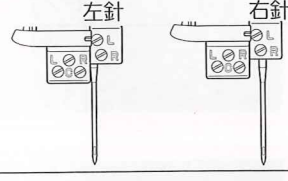
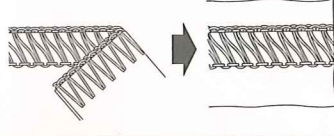
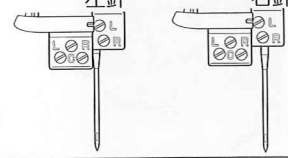
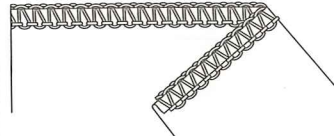
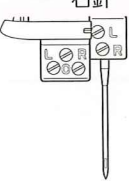
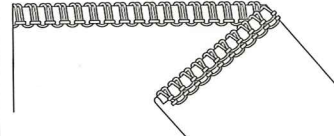
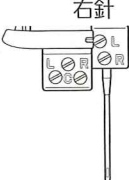
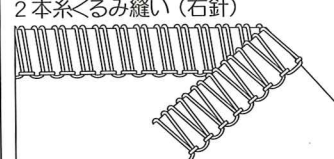
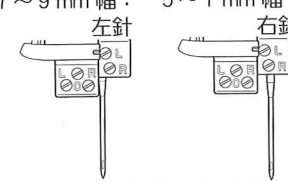
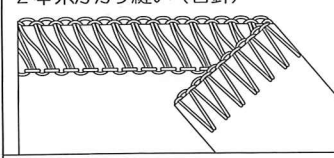
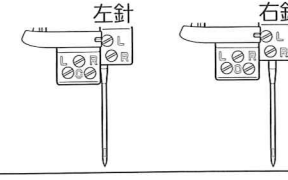
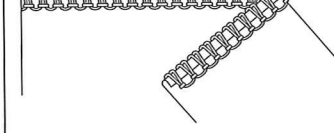
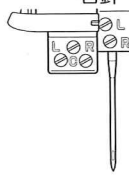
■仕様表

項目	仕様
縫い目	カバーステッチ 3本針4本糸：針幅5mm：4本糸 2本針3本糸：針幅2.5/5mm幅：3本糸 インターロック チェーンステッチ：2本糸 オーバーロック 1本針3本糸+チェーンステッチ：5本糸 1本針2本糸+チェーンステッチ：4本糸 2本針4本糸：4本糸 1本針3本糸：3本糸 1本針2本糸：2本糸
使用針	シユムツツ家庭用針 130x705Hタイプ(15x1H) #12, #14
かがり幅	5～7mm(2本糸・3本糸オーバーロック右針) 7～9mm(2本糸・3本糸・4本糸オーバーロック左針) 10～12mm(2/3本糸オーバーロック+チェーンステッチ) 巻き縫い：1.8～2.2mm カバーステッチ：2.5/5mm

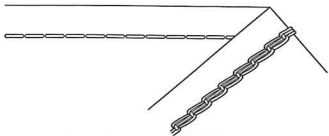
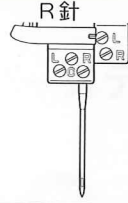
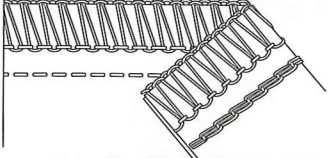
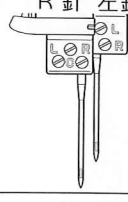
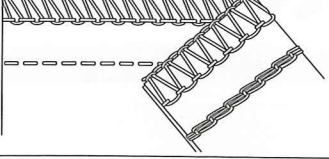
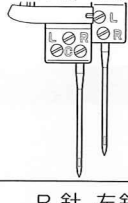
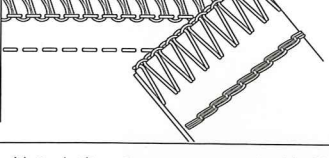
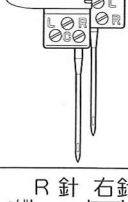
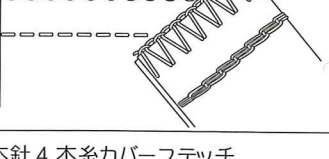
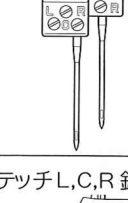
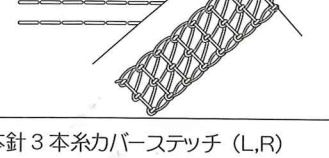

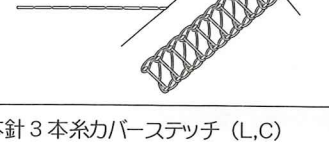


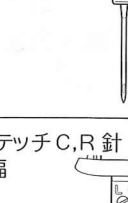
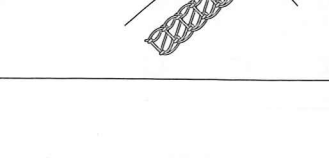
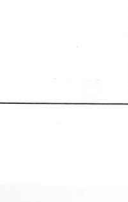
項目	仕様
送り量 (縫い目の長さ)	1～4 mm (標準オーバーロック 2.5 mm) カバーステッチ 3.0 mm
差動送り比	0.7～N(1)～2.0
押え上げ量	6 mm
縫い速度	最大 1,500 針 / 分
ミシンの大きさ	幅 315 x 奥行 285 x 高さ 370 mm
重量(本体)	8 kg
定格電圧/消費電力	100V/115W 50/60HZ
ランプ消費	15W

ステッチ一覧表

※下記糸調子ダイヤルの目盛りは、目安です。糸の種類や布の種類によって異なります。

ステッチ仕様	使用する針	糸調子ダイヤルの目盛り	各調節つまみ
4本系合わせふちかがり縫い 	7~9mm幅 左右針 	左針糸(黄): 3~5 右針糸(緑): 3~5 上ルーパー糸(青): 3~5 下ルーパー糸(赤): 3~5	送り量(ぬい目の長さ): 2.5 メス幅: 1~2.5
3本系スーパーステッチ縫い 	7~9mm幅 左右針 	左針糸(黄): 3.5~5.5 右針糸(緑): 3~5 下ルーパー糸(赤): 2~4 ※下ルーパー糸に飾り用ウーリー糸を使用した場合	送り量(ぬい目の長さ): 2~2.5 メス幅: 1~2
3本系かがり縫い(左針) 3本系かがり縫い(右針) 	7~9mm幅: 左針 5~7mm幅: 右針 	左針糸(黄): 3~5 右針糸(緑): 3~5 上ルーパー糸(青): 3~5 下ルーパー糸(赤): 3~5	送り量(ぬい目の長さ): 2.5 メス幅: 1~2.5
3本系飾り縫い(開き縫い)(左針) 3本系飾り縫い(開き縫い)(右針) 	7~9mm幅: 左針 5~7mm幅: 右針 	左針糸(黄): 1~2.5 右針糸(緑): 1~2.5 上ルーパー糸(青): 1~3 下ルーパー糸(赤): 6~9 ※上ルーパー糸に飾り用太糸を使用した場合	送り量(ぬい目の長さ): 2.5 メス幅: 1~2
3本系細口ツク縫い 	1.8~2.2mm幅 右針 	右針糸(緑): 3~5 上ルーパー糸(青): 4~6 下ルーパー糸(赤): 3~5	送り量(ぬい目の長さ): 1~1.5 メス幅: 1~1.5
3本系全巻き縫い 	1.8~2.2mm幅 右針 	右針糸(緑): 3~5 上ルーパー糸(青): 4~6 下ルーパー糸(赤): 6~8	送り量(ぬい目の長さ): 1~1.5 メス幅: 1~1.5
2本系くすみ縫い(左針) 2本系くすみ縫い(右針) 	7~9mm幅: 左針 5~7mm幅: 右針 	左針糸(黄): 4~6 右針糸(緑): 4~6 下ルーパー糸(赤): 3~5	送り量(ぬい目の長さ): 1.5~2.5 メス幅: 1~2
2本系かがり縫い(左針) 2本系かがり縫い(右針) 	7~9mm幅: 左針 5~7mm幅: 右針 	左針糸(黄): 1~3 右針糸(緑): 1~3 下ルーパー糸(赤): 4~6	送り量(ぬい目の長さ): 2.5 メス幅: 1~2.5
2本系全巻き縫い 	1.8~2.2mm幅 右針 	右針糸(緑): 3~6 下ルーパー糸(赤): 3~6	送り量(ぬい目の長さ): 1~1.8 メス幅: 1~1.5

※下記糸調子ダイヤルの目盛りは、目安です。糸の種類や布の種類によって異なります。

ステッチ仕様	使用する針	糸調子ダイヤルの目盛り	各調節つまみ
チェーンステッチ 	R針 	R針系(茶) : 3~5 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5
1本針3本糸+チェーンステッチ(左針) 	R針 左針 	R針系(茶) : 3~5 左針系(黄) : 3~5 上ルーバー系(青) : 3~5 下ルーバー系(赤) : 3~5 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2
1本針3本糸+チェーンステッチ(右針) 	R針 右針 	R針系(茶) : 3~5 右針系(緑) : 3~5 上ルーバー系(青) : 3~5 下ルーバー系(赤) : 3~5 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~3
1本針2本糸+チェーンステッチ(左針) 	R針 左針 	R針系(茶) : 3~5 左針系(黄) : 1~3 下ルーバー系(赤) : 4~6 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2
1本針2本糸+チェーンステッチ(右針) 	R針 右針 	R針系(茶) : 3~5 右針系(緑) : 1~3 下ルーバー系(赤) : 4~6 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~3
3本針4本糸カバーステッチ 	カバーステッチL,C,R針 5mm幅 	L針系(ピンク) : 3~4 C針系(ピンク) : 3.5~5 R針系(ピンク) : 4.5~6 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3
2本針3本糸カバーステッチ(L,R) 	カバーステッチL,R針 5mm幅 	L針系(ピンク) : 3~4 R針系(ピンク) : 4.5~6 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3
2本針3本糸カバーステッチ(L,C) 	カバーステッチL,C針 2.5mm幅 	L針系(ピンク) : 3~4 C針系(ピンク) : 3.5~5 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3
2本針3本糸カバーステッチ(C,R) 	カバーステッチC,R針 2.5mm幅 	C針系(ピンク) : 3.5~5 R針系(ピンク) : 4.5~6 二重環ルーバー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3

JUKI

JUKI 株式会社

〒 206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11- 1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望が
ございましたら、お買い上げのお店、
または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日（月～金）9:00～12:00、13:00～17:45

Copyright © 2004-2011 JUKI CORPORATION
本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼される時お役に立ちます。

電話（ - - ）
購入年月日： 年 月 日